

國碁妙傳

農

79
4075
2



門 70
號 4075
卷 2

嘉永五年壬子正月十五日於姫路

幻菴

四子 井田嶋右工門

八目勝

黒六八△印エ出方

ヨシ

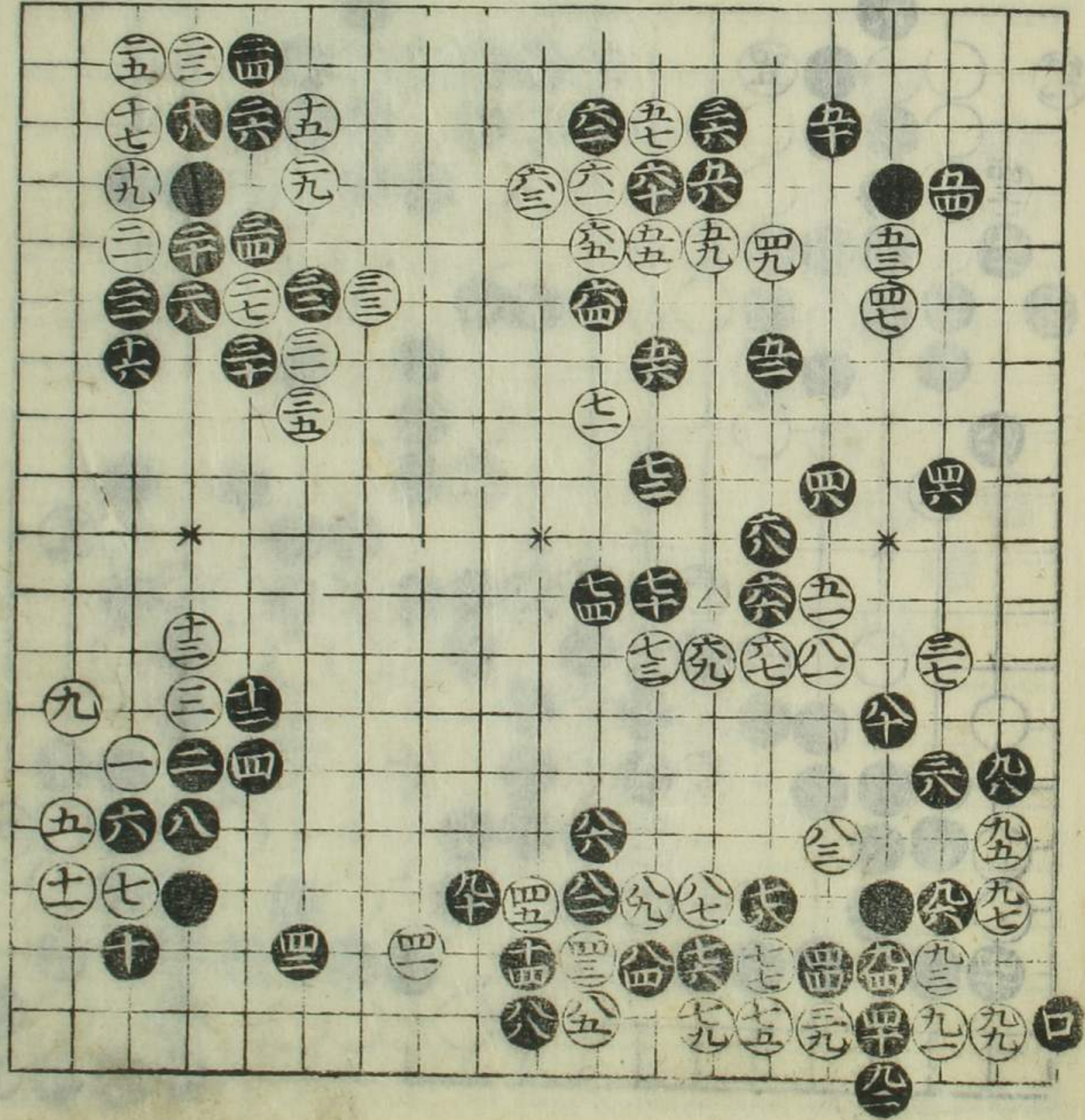
全七六唯七七之處エ

推テ打方無紛テ

ヨシ全八二無益也

只八七ノ所エ粘方

慥ナリ



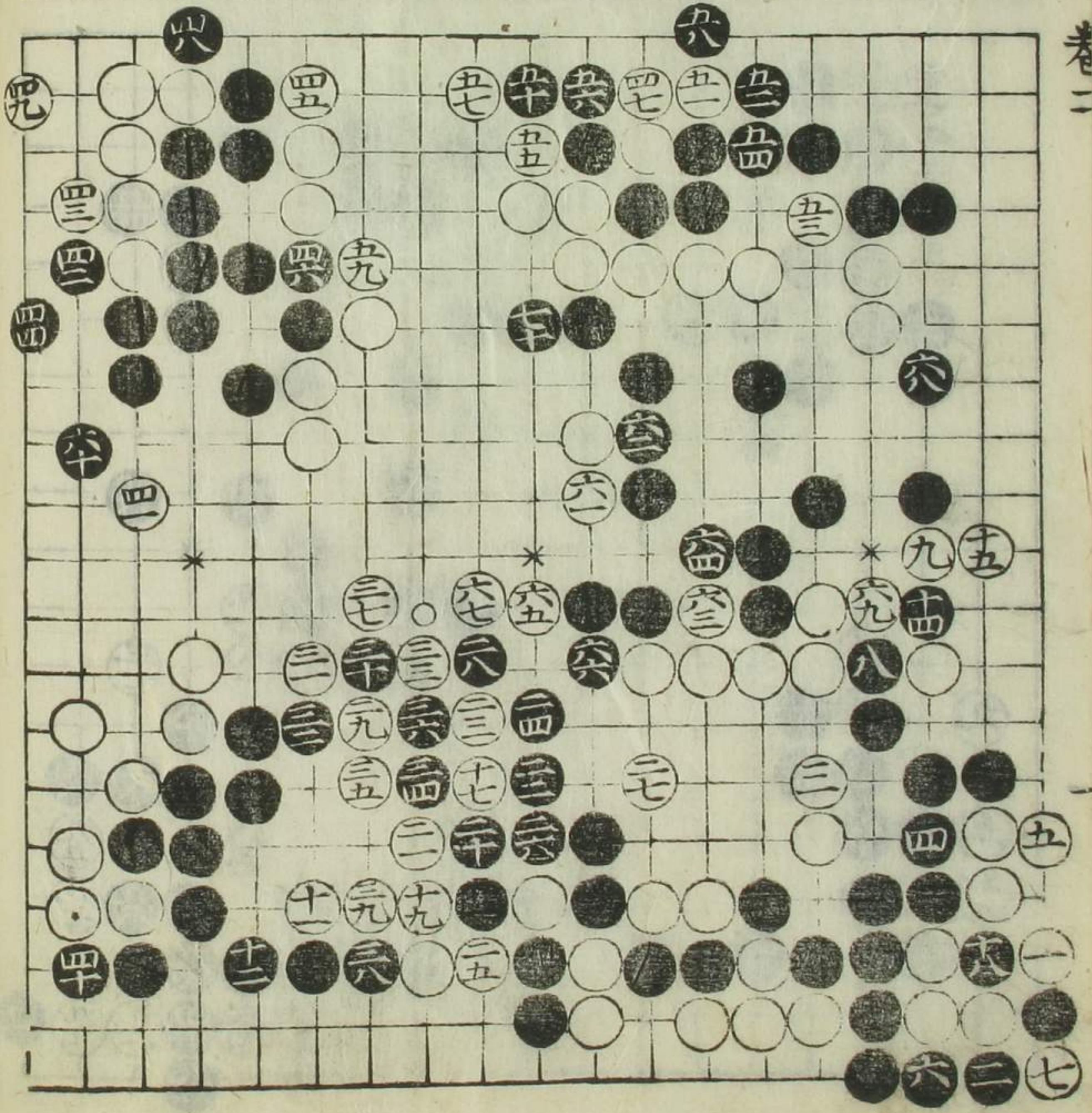
少傳

濱田橋次郎氏
遺贈圖書
昭和四十二年三月

41 12506

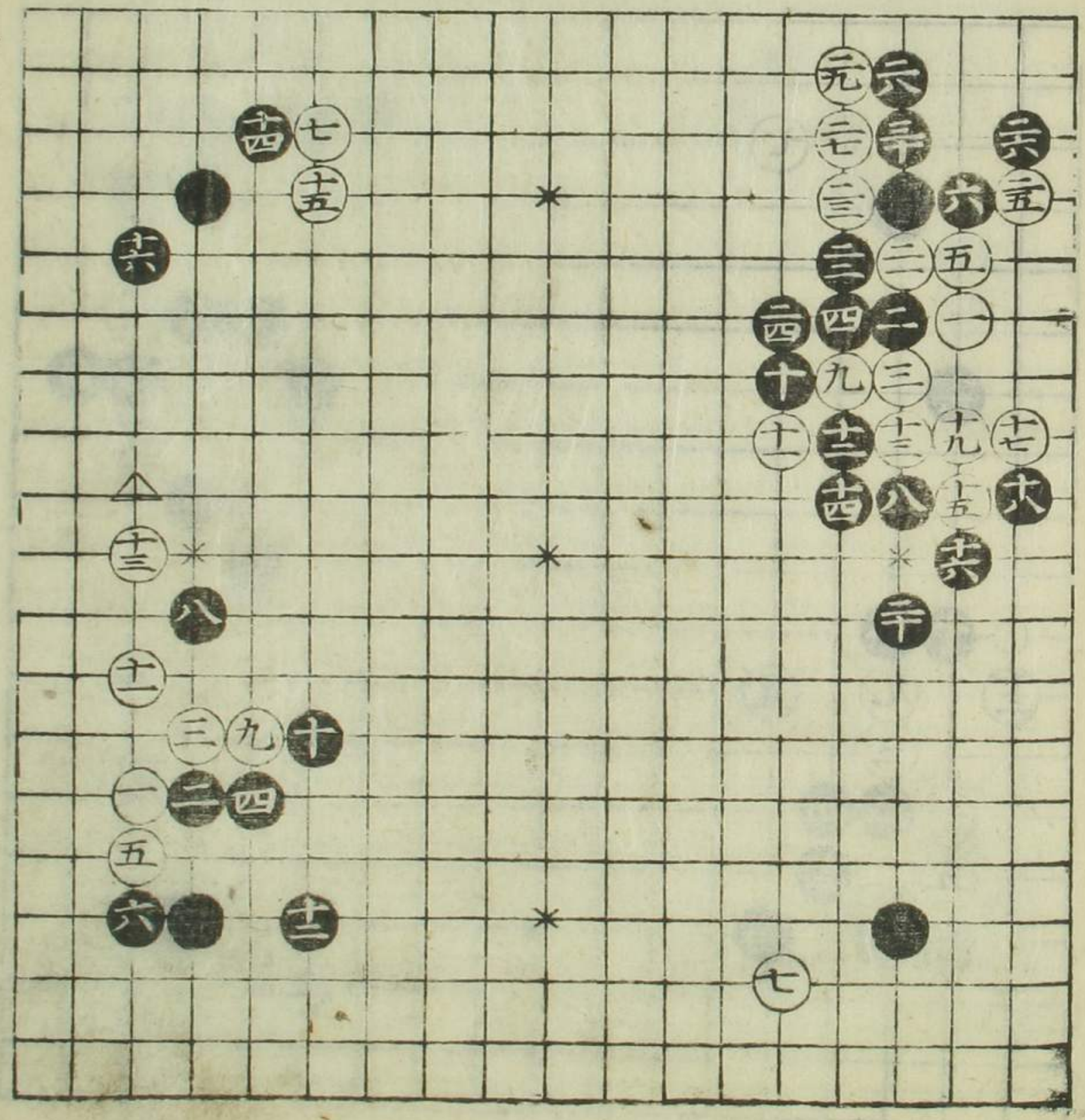
十
却トル
六

黒六十二テ〇印エ
打バ大ニ勝ナリ



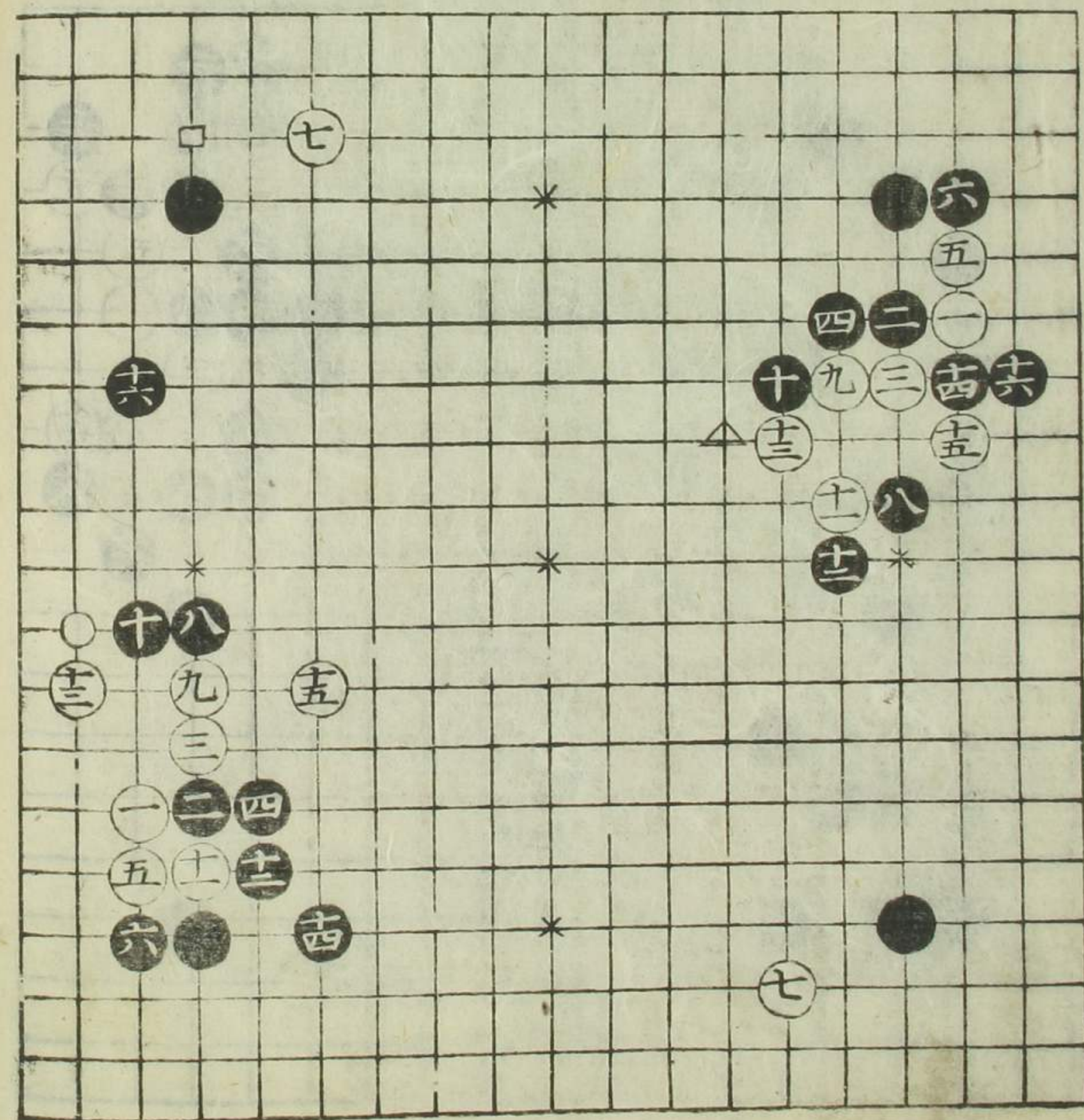
右
立黒三十ヨレ白ノ
二五ノ一月ヲ切テ
トル心甚悪

左
立十三ノ白石アル
トキハ如是上四十
六ト早治ル方四子
以上之置碁ニテハ
必慥ナリト可知充
十三ノ白石△印ニ
アル時ハ猶以ヨレ

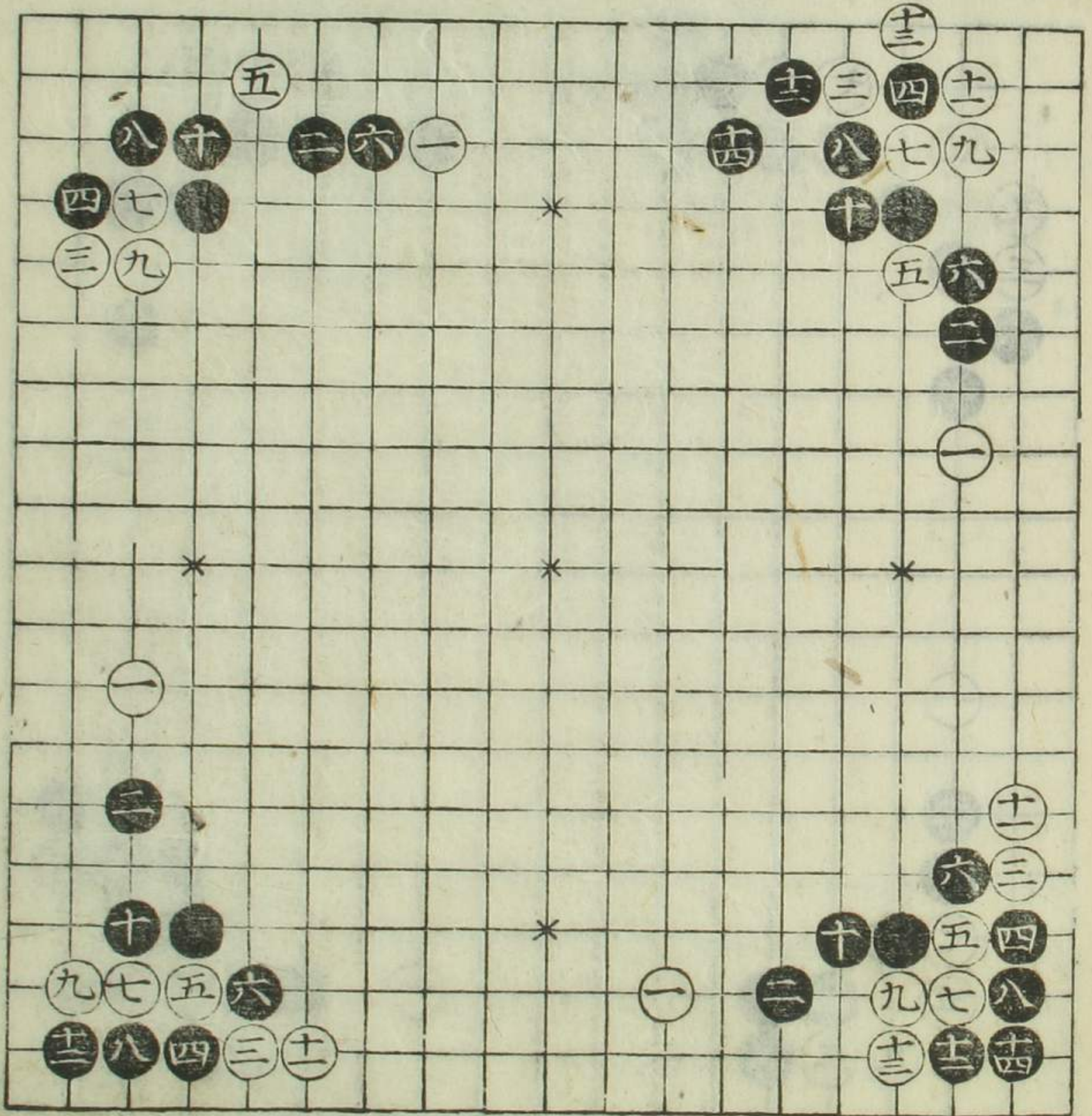


右
立若左ノ方ニ征ノ
中リアル時ハ十四
ノ切ヲ止テ△印エ
可打

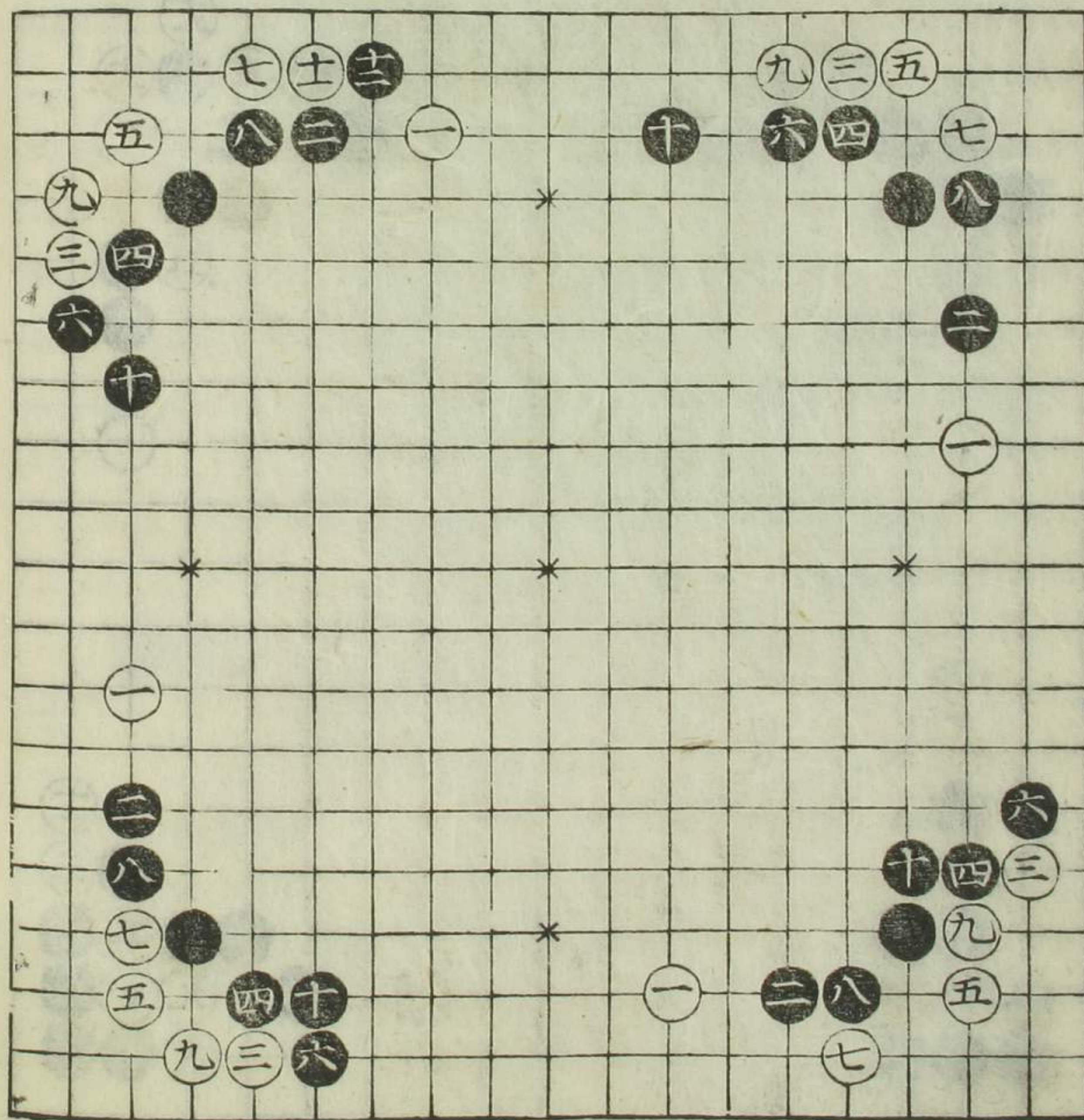
左
此後白ヨリ○印エ
出テ来レバ八十十
ノ二目ヲ捨物ト
シテ□印杯エ抜
テ打心尤宜



上
黒六ノ手白ノ九ノ処
エ打テモヨシ
去
昔ヨリ有來之立
ナリ
平入
二隅共白無理ナリ



表ノ圖黒四ノ請方
往古ヨリ定法ナリ
十一世因碩惟ルニ
此圖ノ方早覺ニ
テ可然歟

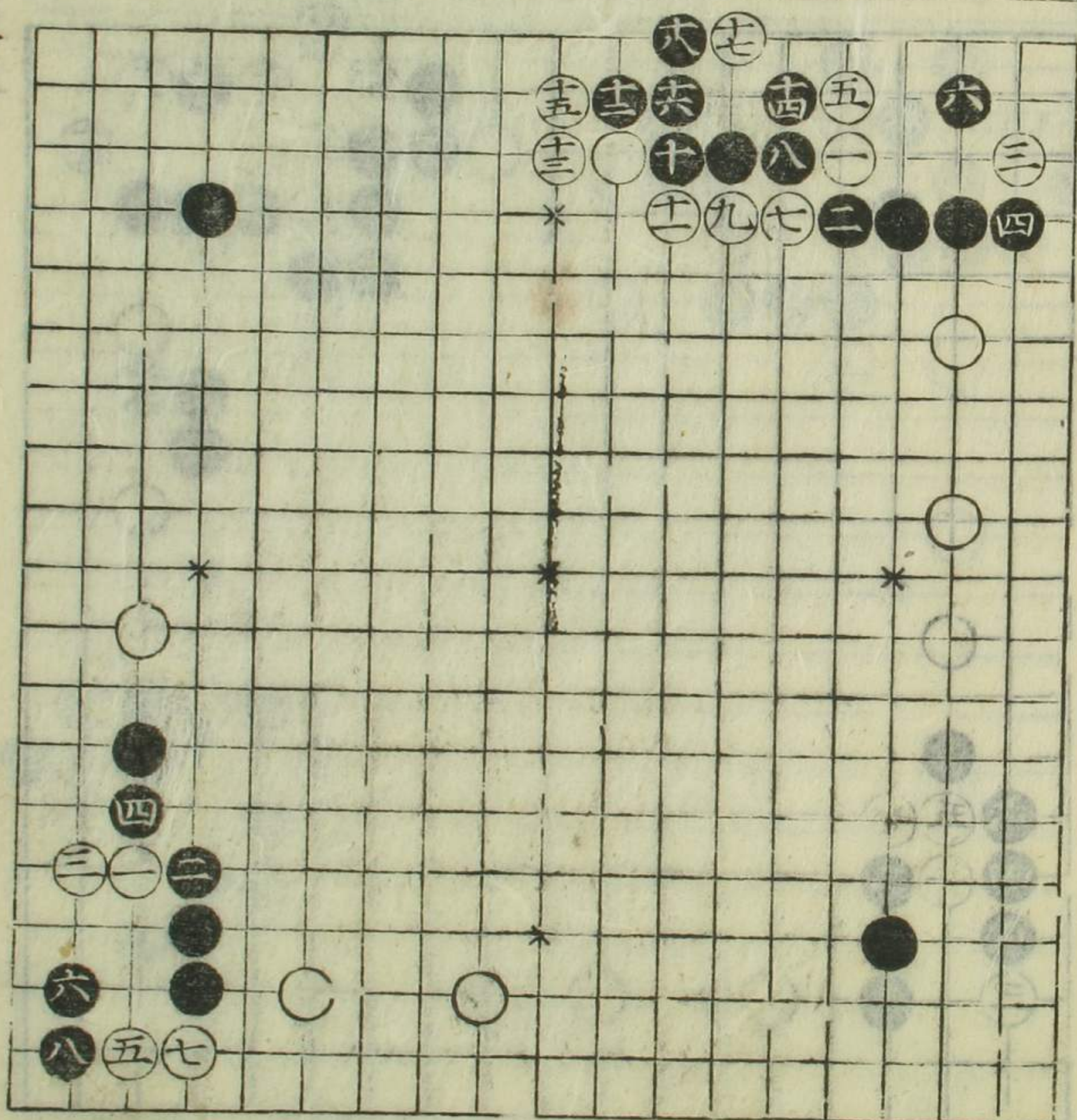


上

黒十四ノ手ヲ白ノ十五
ノ処エ打バ十四ノ所エ打
レテハマリ也

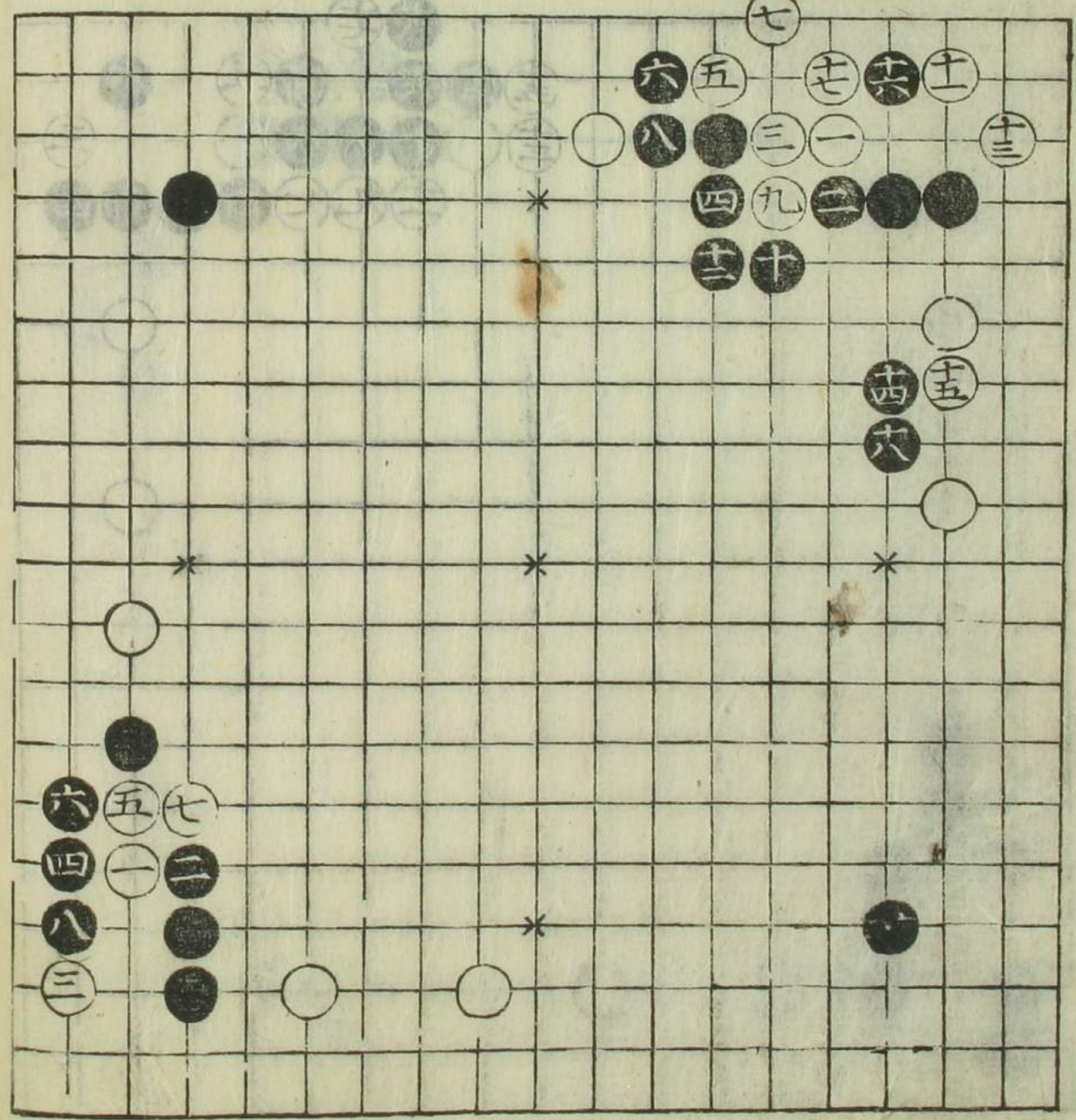
下

可モナク不可モナシト
可知

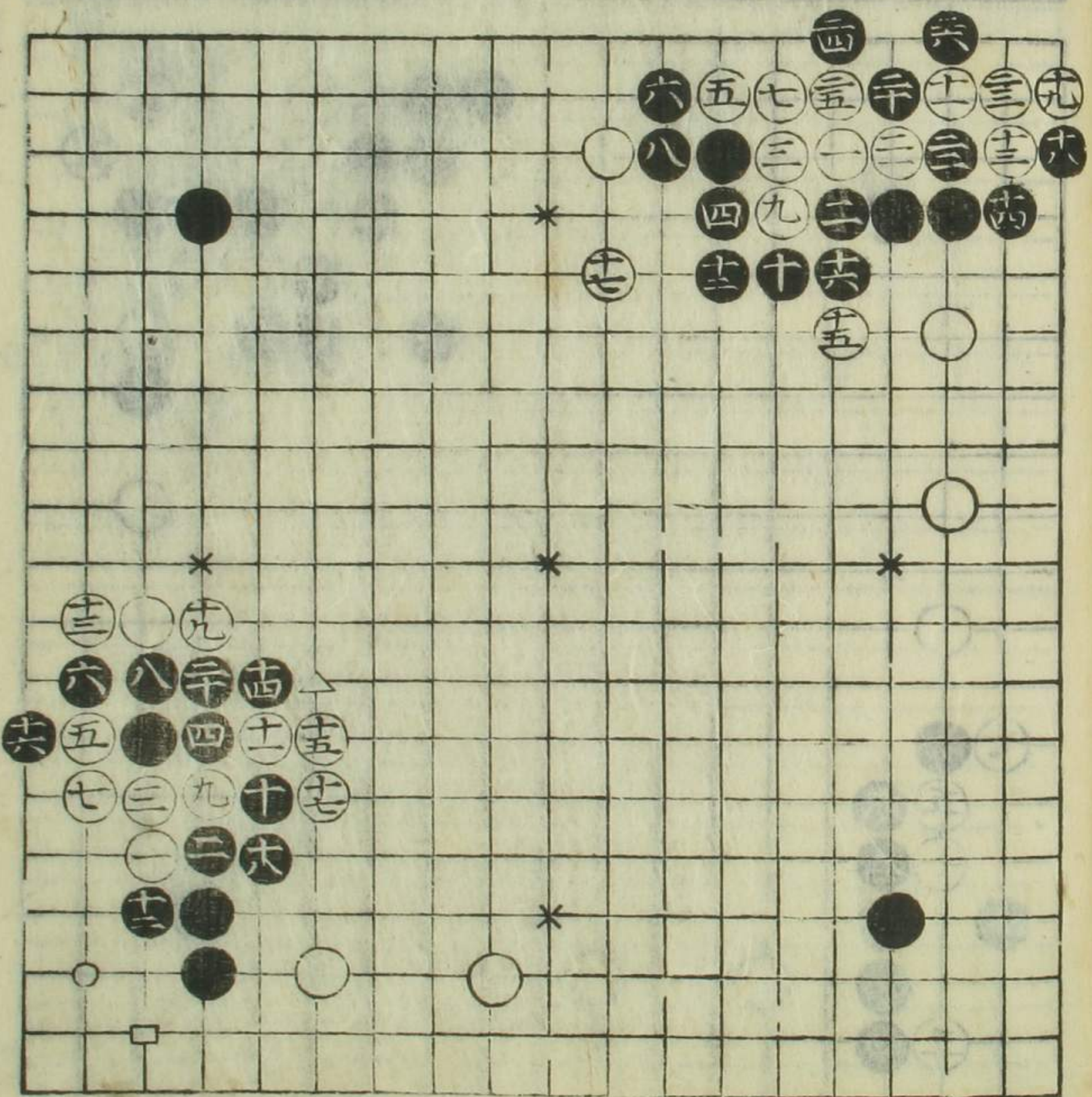


上
黒十四十六此形ニテハ
尤ヨシ

下
白三ノ手無理ナリ如
是ニテハ大ニ徳也



上
隅黒十八ノ手急ニ打
手ニハアラズ唯此劫
アルヲ教ニ為ニ訛
之
下
隅黒十二ノ提能手
ニハアラズ多ハ白ノ
十三ノ処ニ打白〇印エ
打黒十七ノ処ニ打白
〇印エ打時黒△印ニ
打方ヨシ

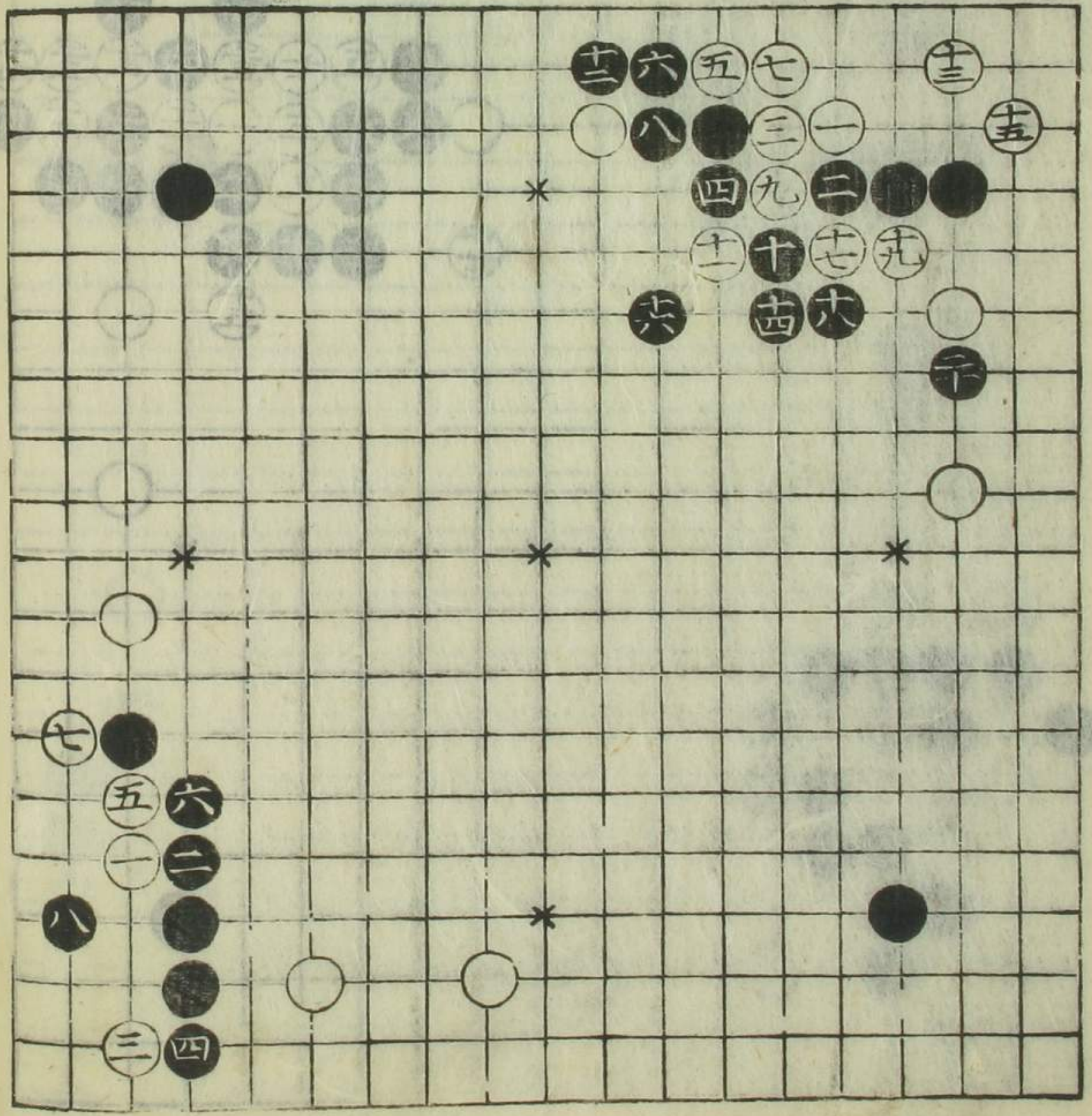


上
黒九ヨシ

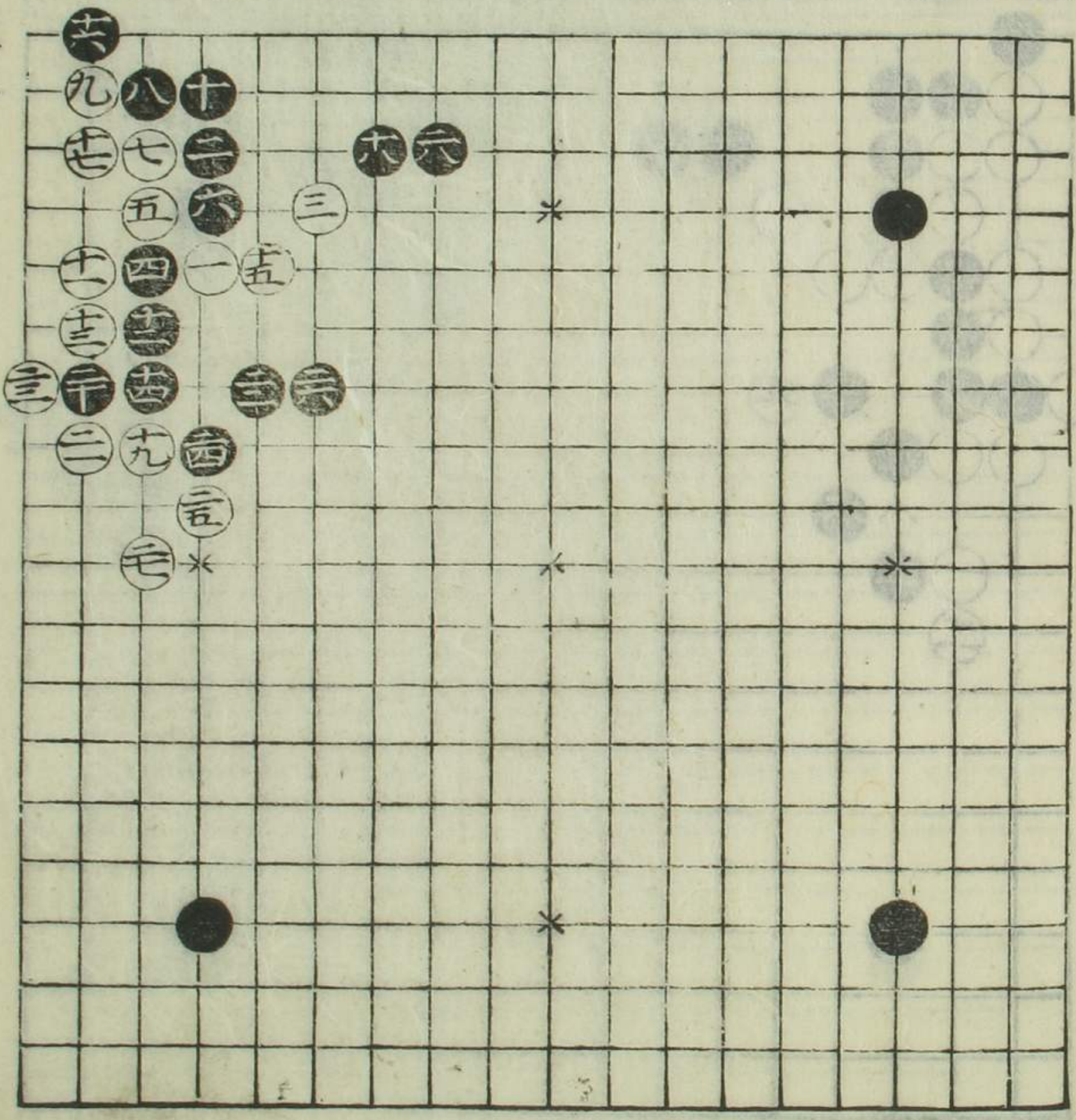
下

白、三ノ一目ヲ提テ
大ニ徳ナル故如是上
二目ヲ捨テモ大ニ
ヨシ

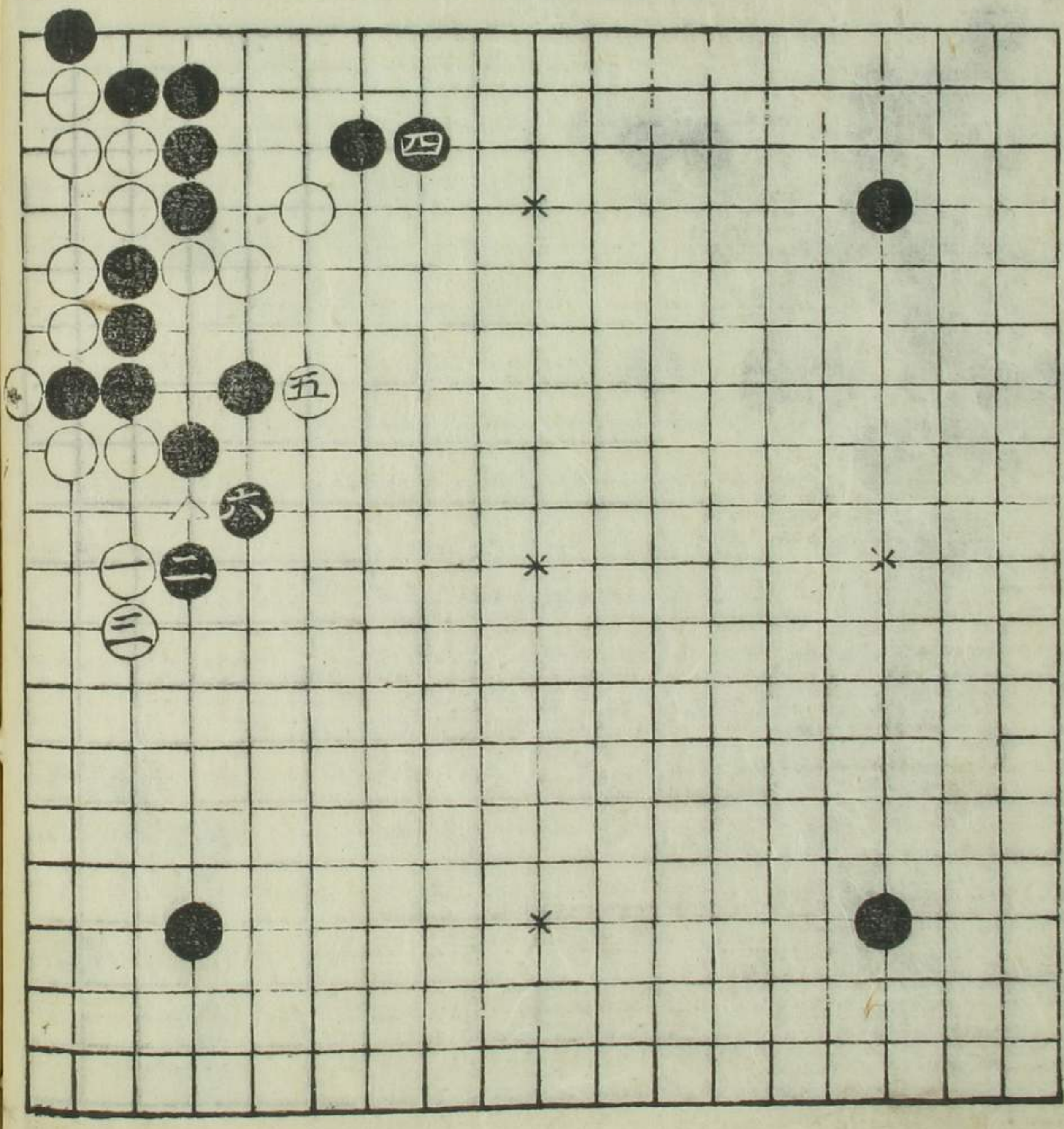
上
下
中
古
迄
ハ
黒
十
八
ノ
手
ヲ
二
十
ノ
処
工
打
ヲ
能
手
ト
心
得
來
レ
リ
近
頃
至
精
密
テ
ハ
如
是
打
方
遙
ニ
賢
レ
リ
既
ニ
シ
テ
弈
範
ニ
モ
古
風
ヲ
記
セ
リ
毎
頁
ニ
後
世
可
恐



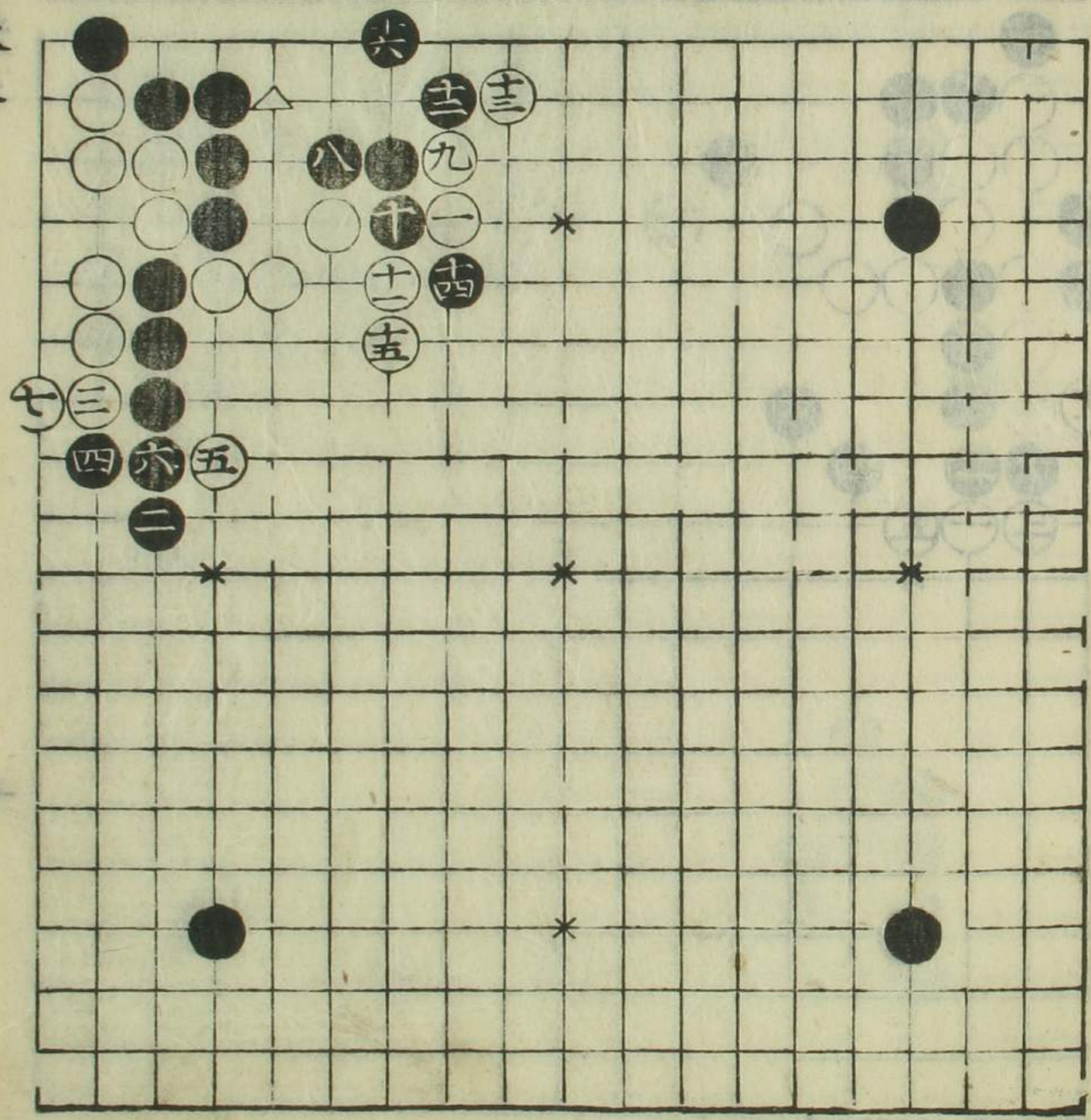
中古迄ハ黒十八ノ
手ヲ二十ノ処工打
ヲ能手ト心得來
レリ近頃至精密
テハ如是打方遙
ニ賢レリ既ニシテ
弈範ニモ古風ヲ
記セリ毎頁ニ後世
可恐



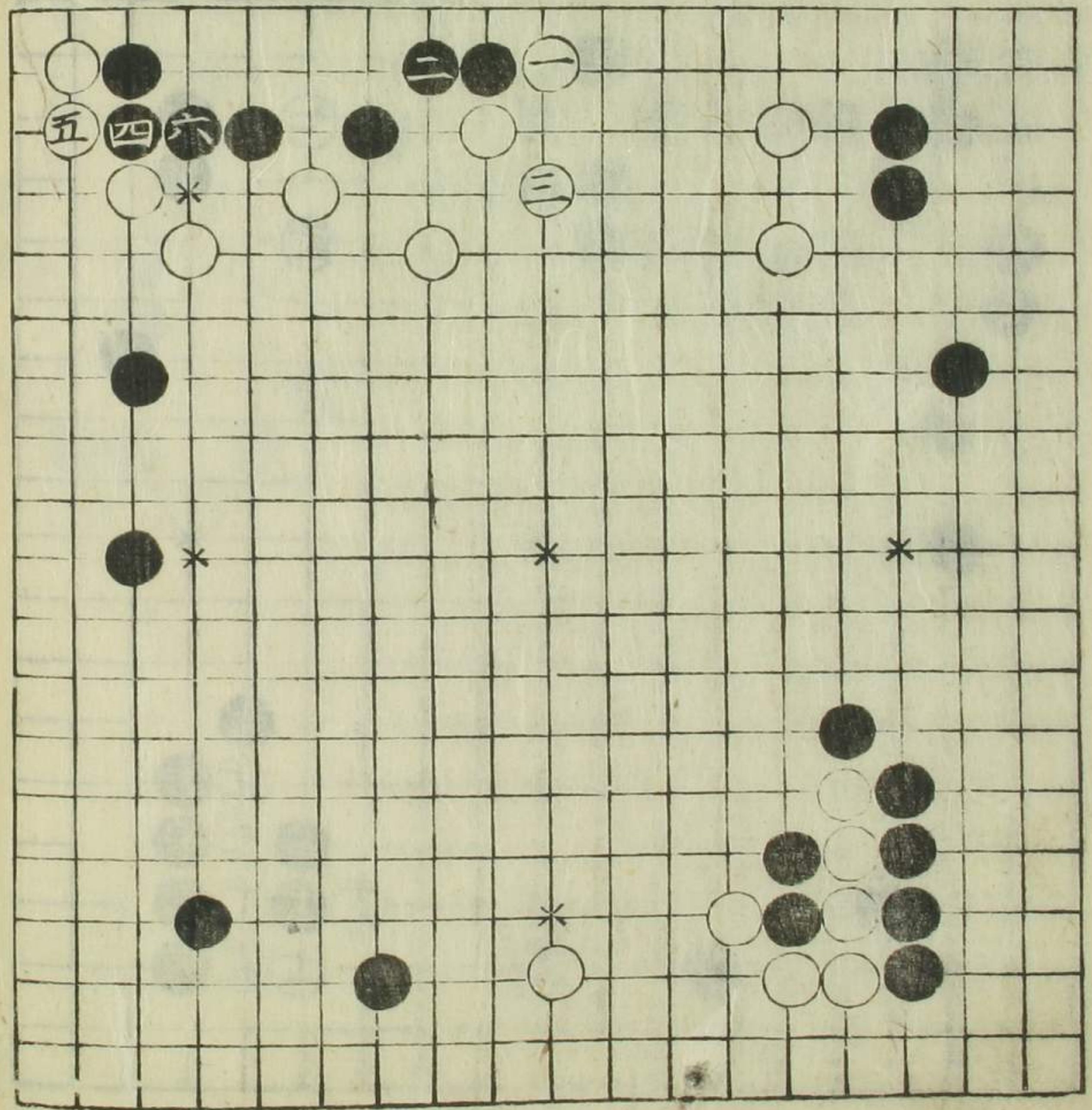
黒六ノ手△印エ打
テモヨレ併尖ノ方
形ヨレ



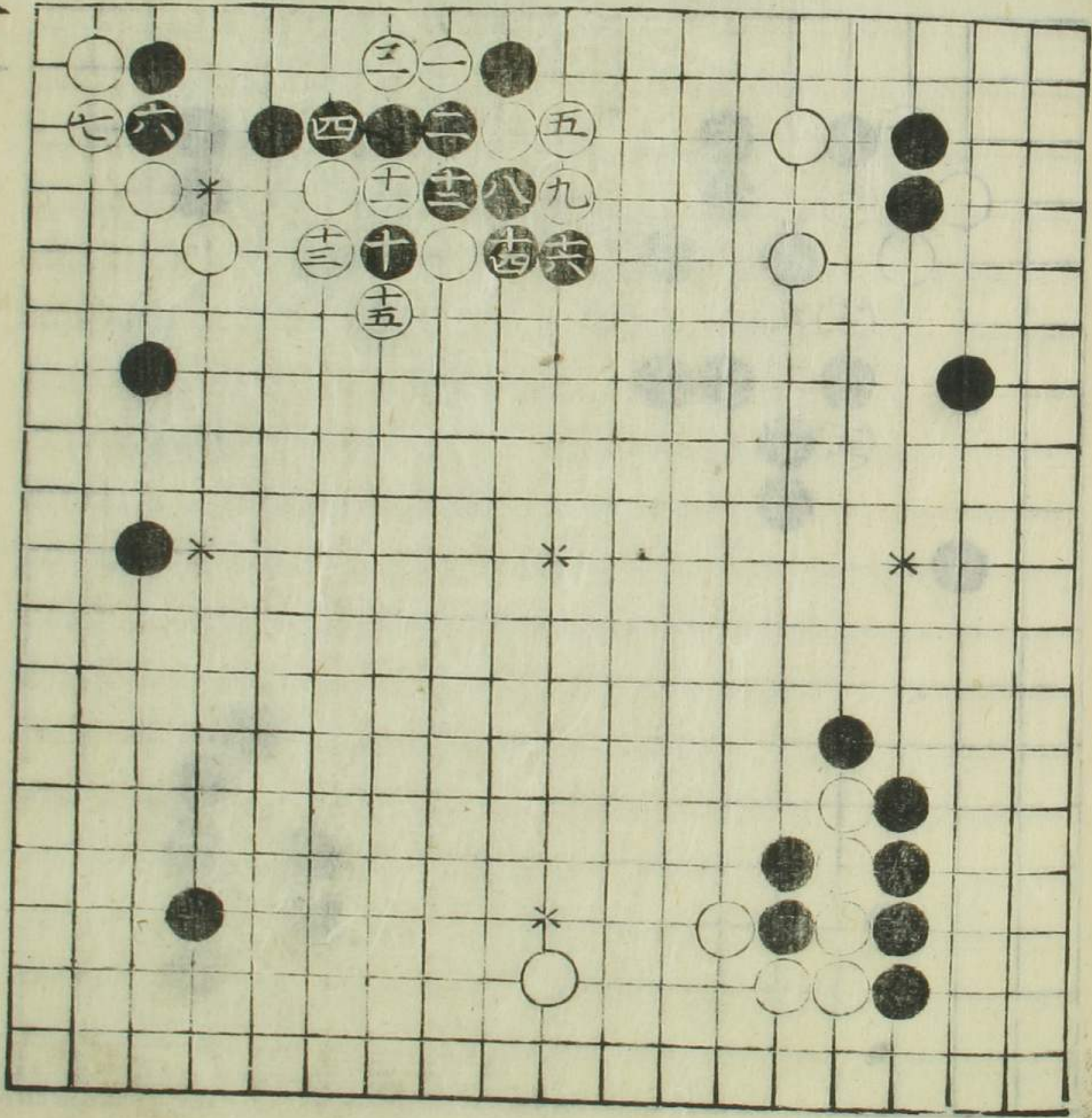
黒八ノ手ヨレ初進
ノ人ハ必九ノ処エ打
タガル也則白ヨリ
△印エ打レテ甚
悪初学ノ人能
察焉



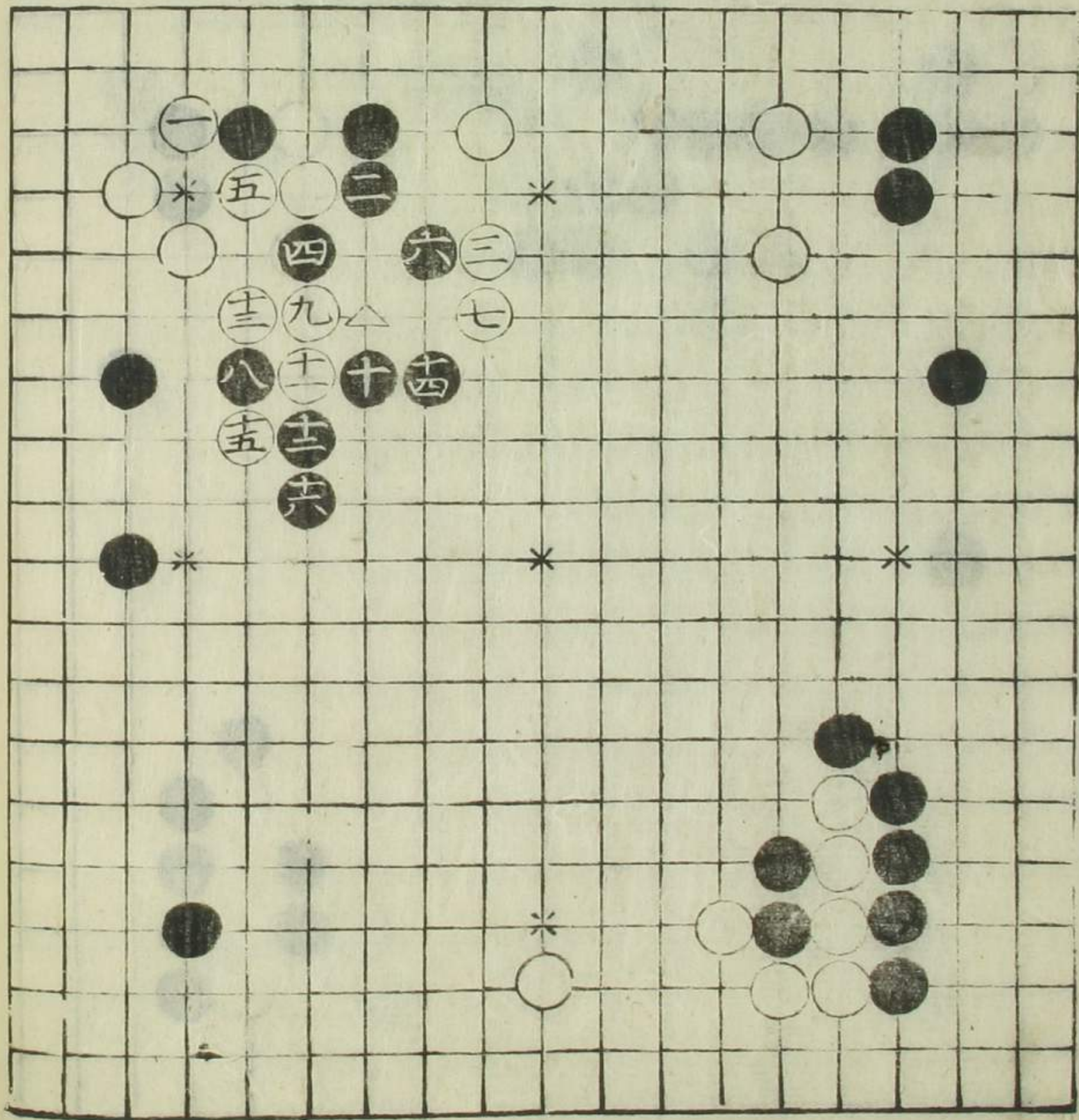
此圖毛表同斷古風
黑右ヨシ



此圖毛前評同斷

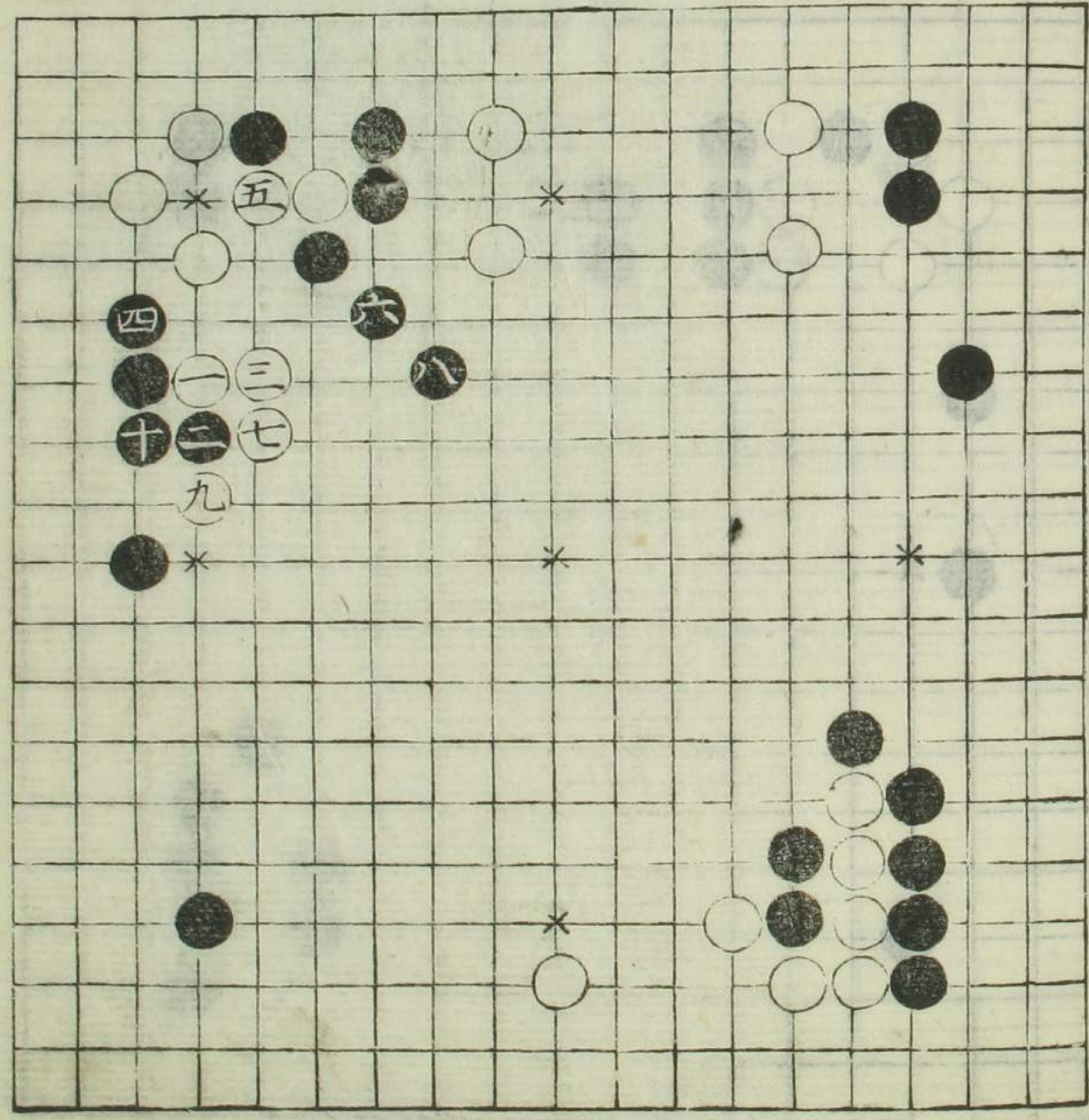


黒六ノ手多ハ△印
工打ドモ如是打方
早ク治リテ可然

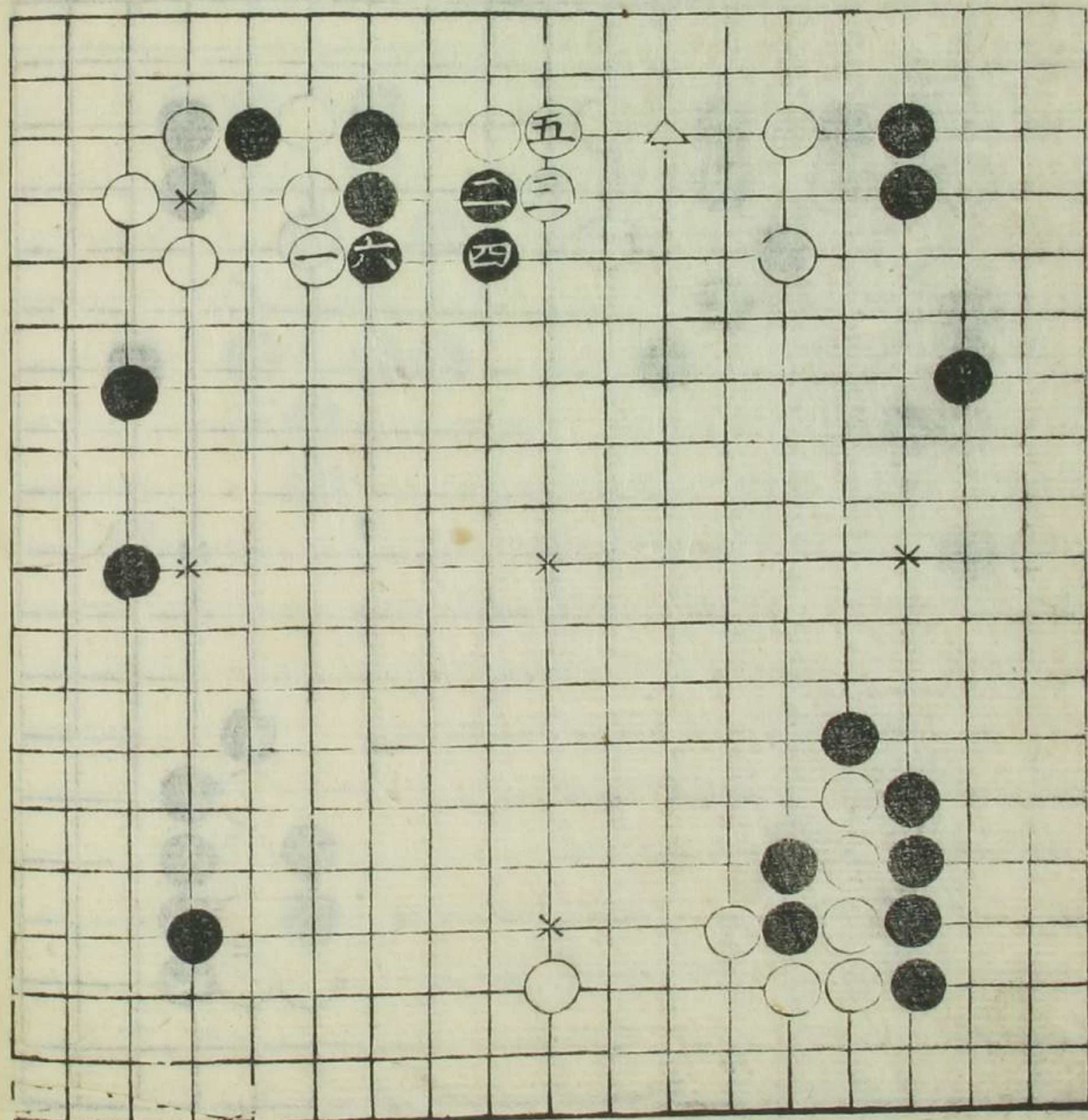


如傳 卷二

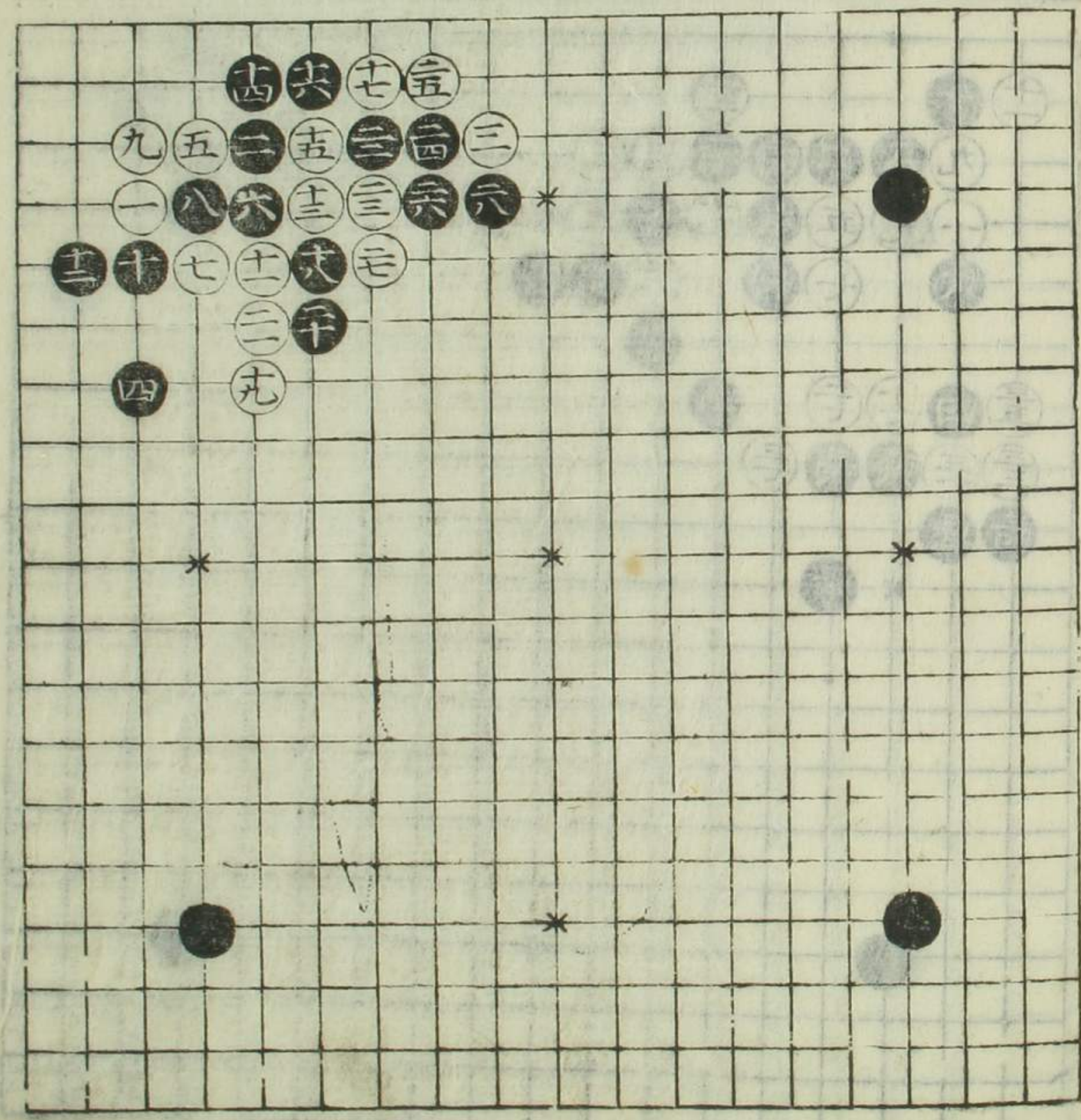
白一三ト打趣向
甚嫌フ手ナレドモ
變化ノ内故總ニ記
ノミ



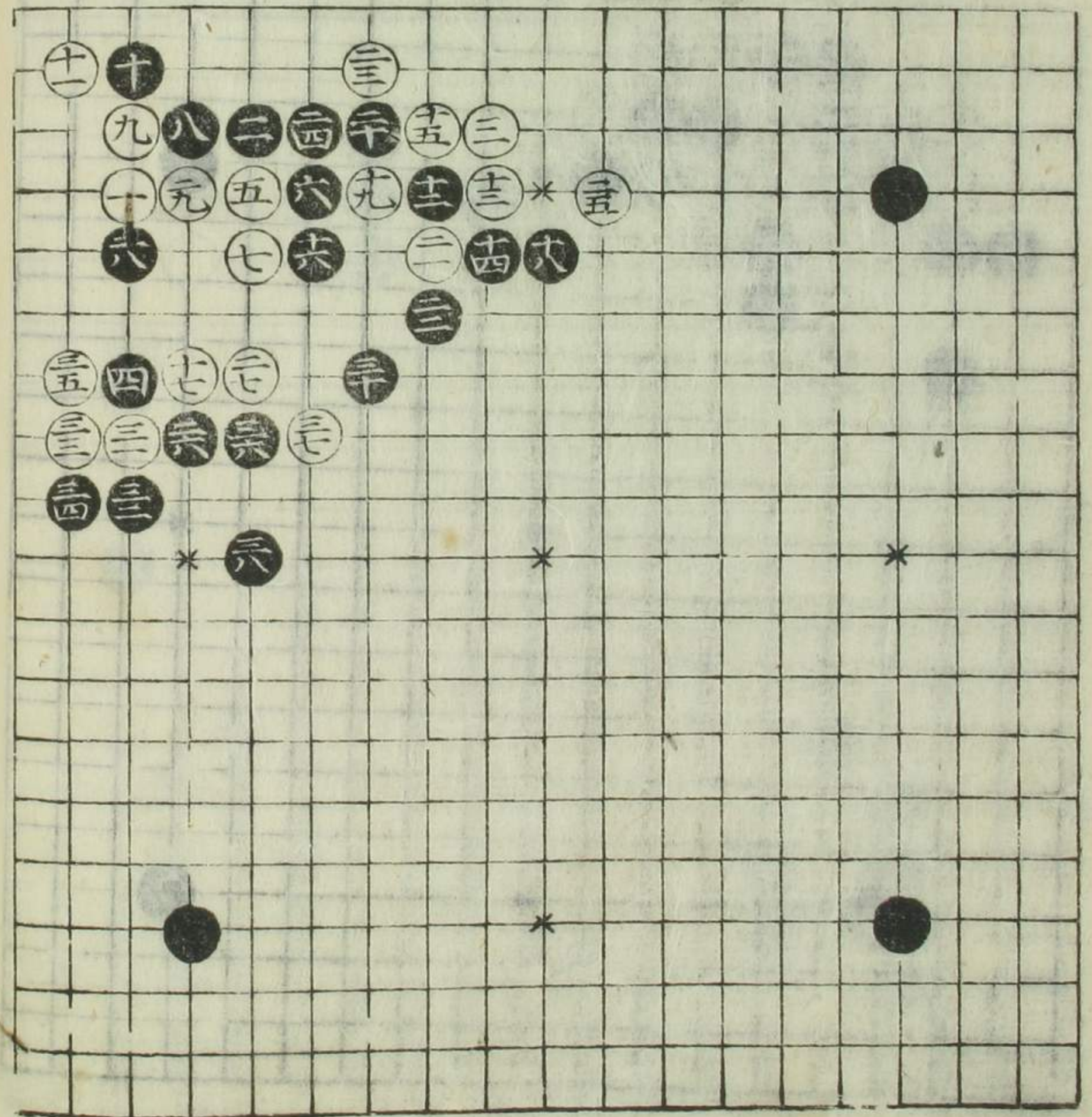
白一ノ手△印ノ邊
ニ白石ア格別左
モナキ時ハ不打手ト
可知



白五ノ手無法ナレ
ドモ黒ノ請方ヲ記
スノミ但入ノ隅ニ當
テ征之中リアル時
ハ八ノ手ニテ二六ノ
処工一手打白二八
ノ処工打時八ノ所
工可押込

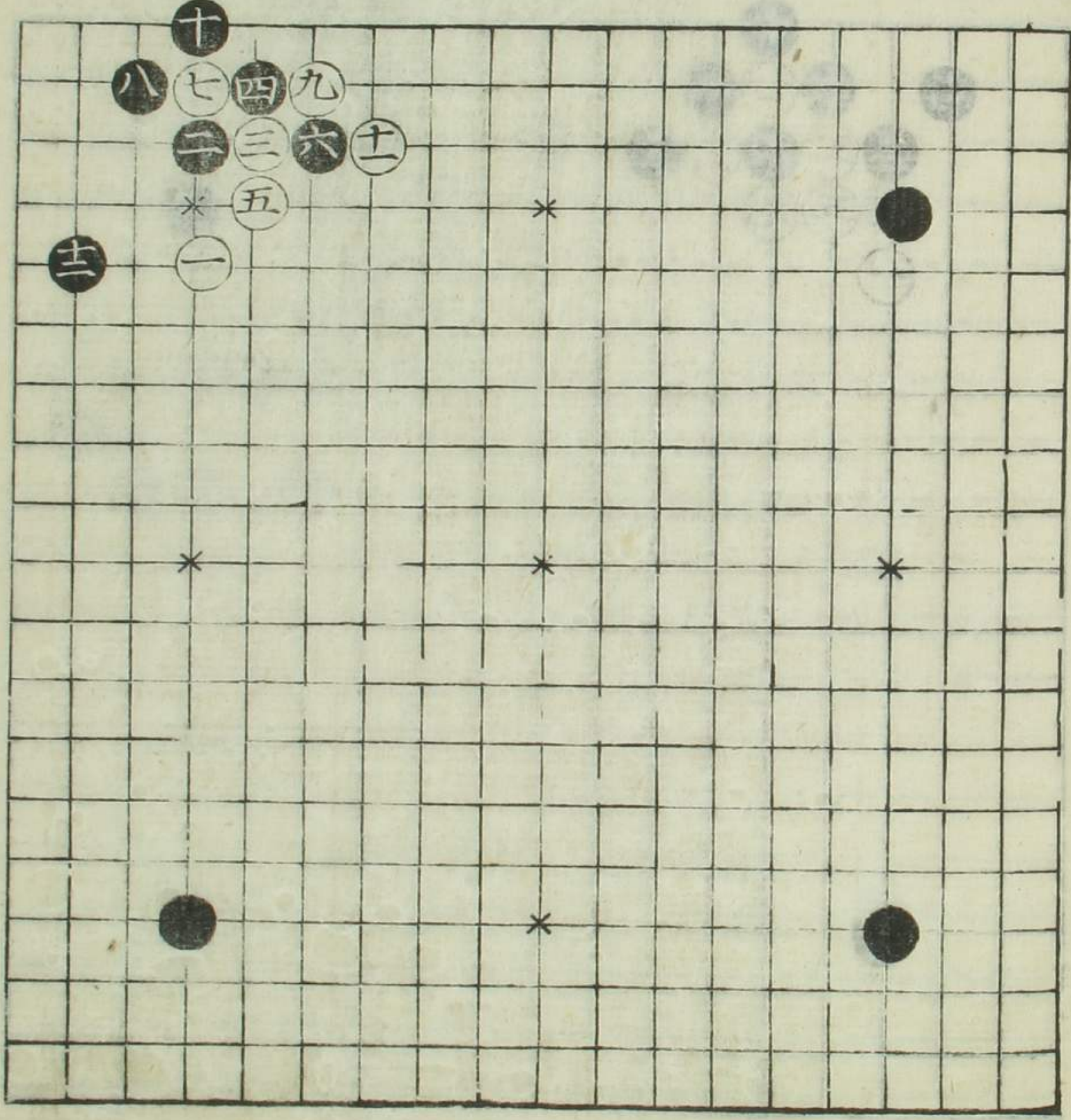


白五ノ手ハ下手紛
ラシノ不直手談
ナリ俟黒ノ請方尤
可心得



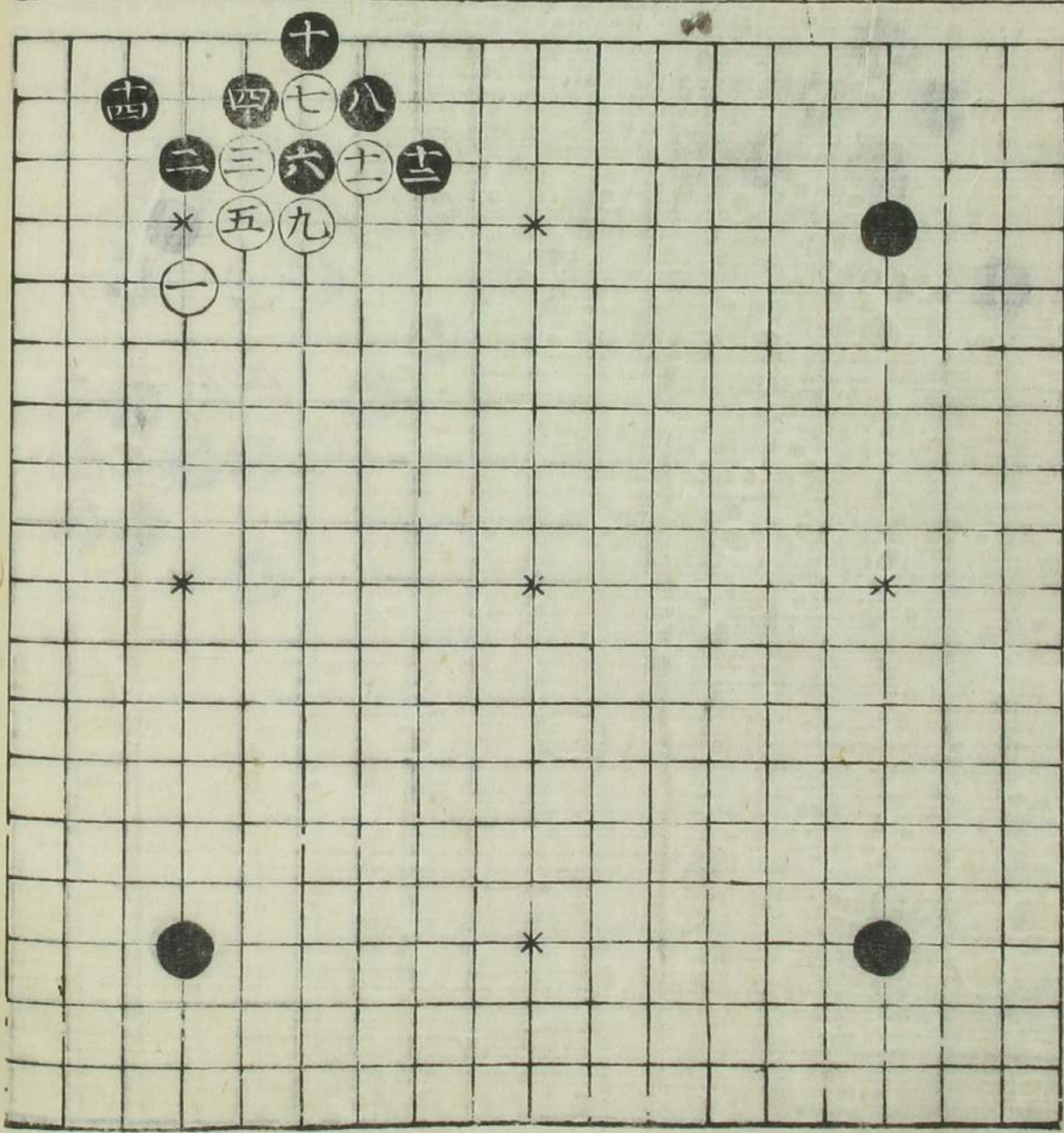
白七ノ切ハ尤損也
三子ノ碁石杯ニテハ
十二ノ手ニテ直ニ
征ヲ出テヨシ

白七ノ切ハ尤損也
三子ノ碁石杯ニテハ
十二ノ手ニテ直ニ
征ヲ出テヨシ



白九ノ手損也

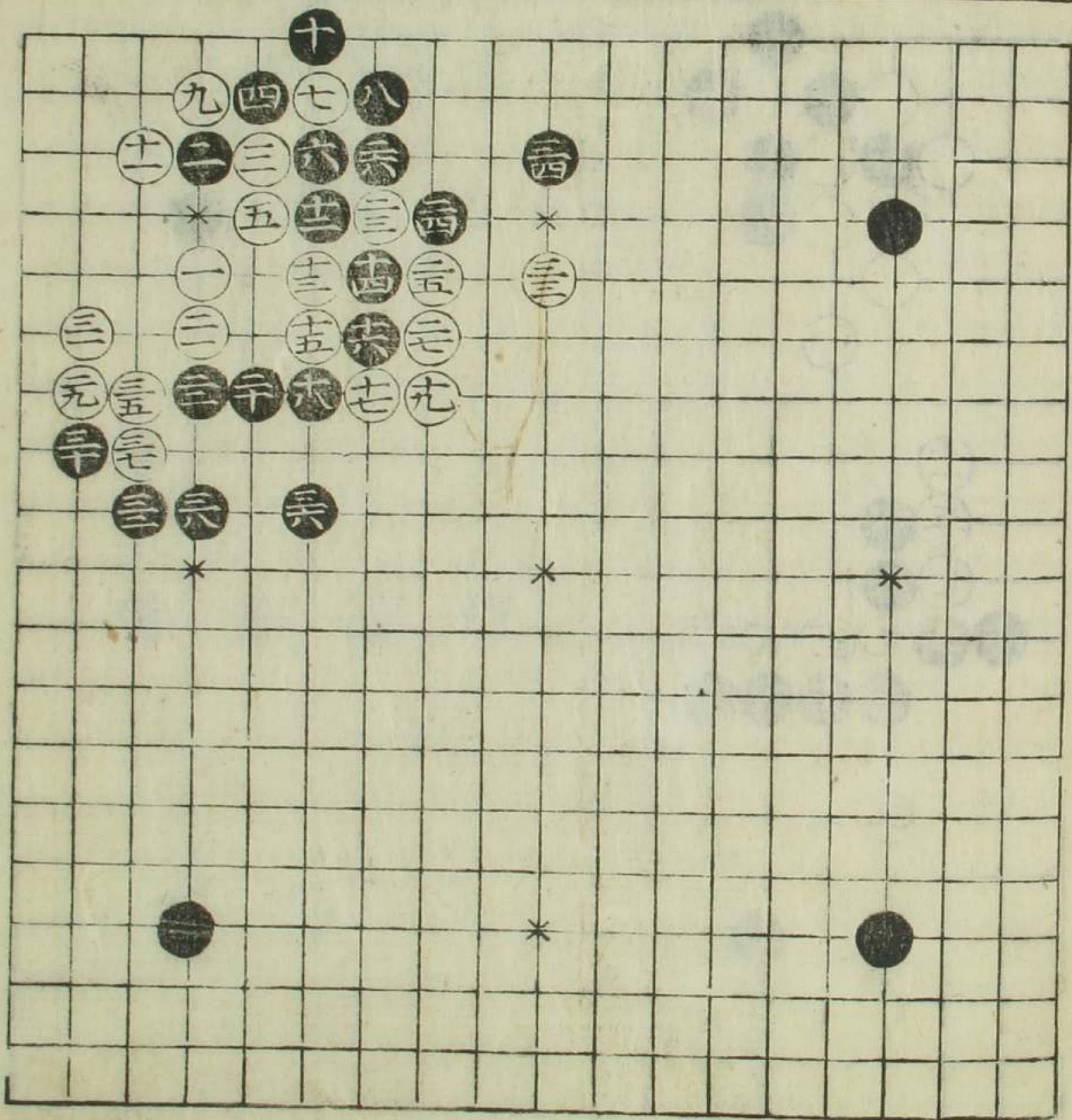
⑤劫提



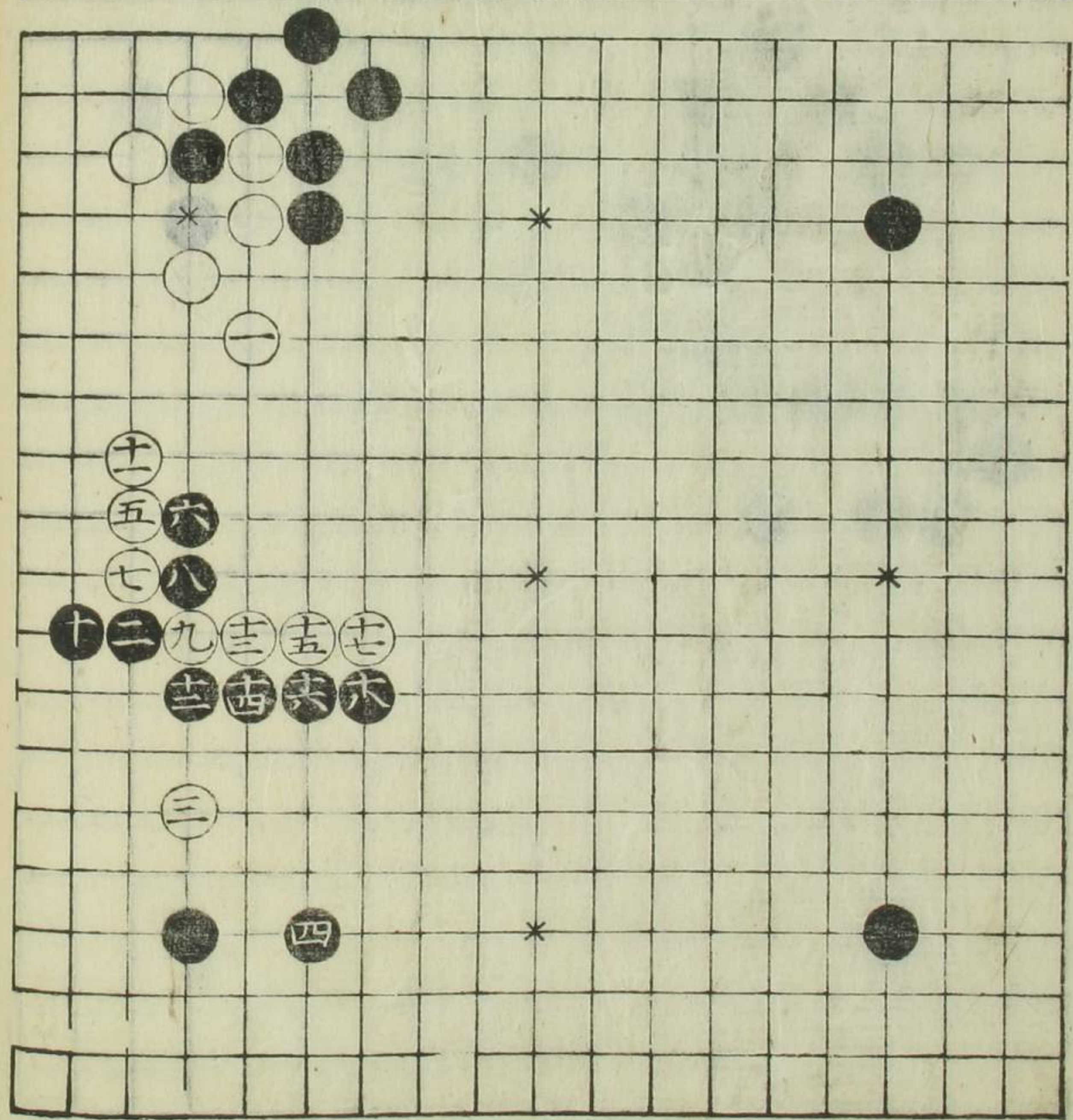
白十三十五ノ打方
ハ古風ニシテ不好ド
モ又々黒之請方
ヲ記スノミ

白三五三七ノ二手
初ニ決テ不
手也

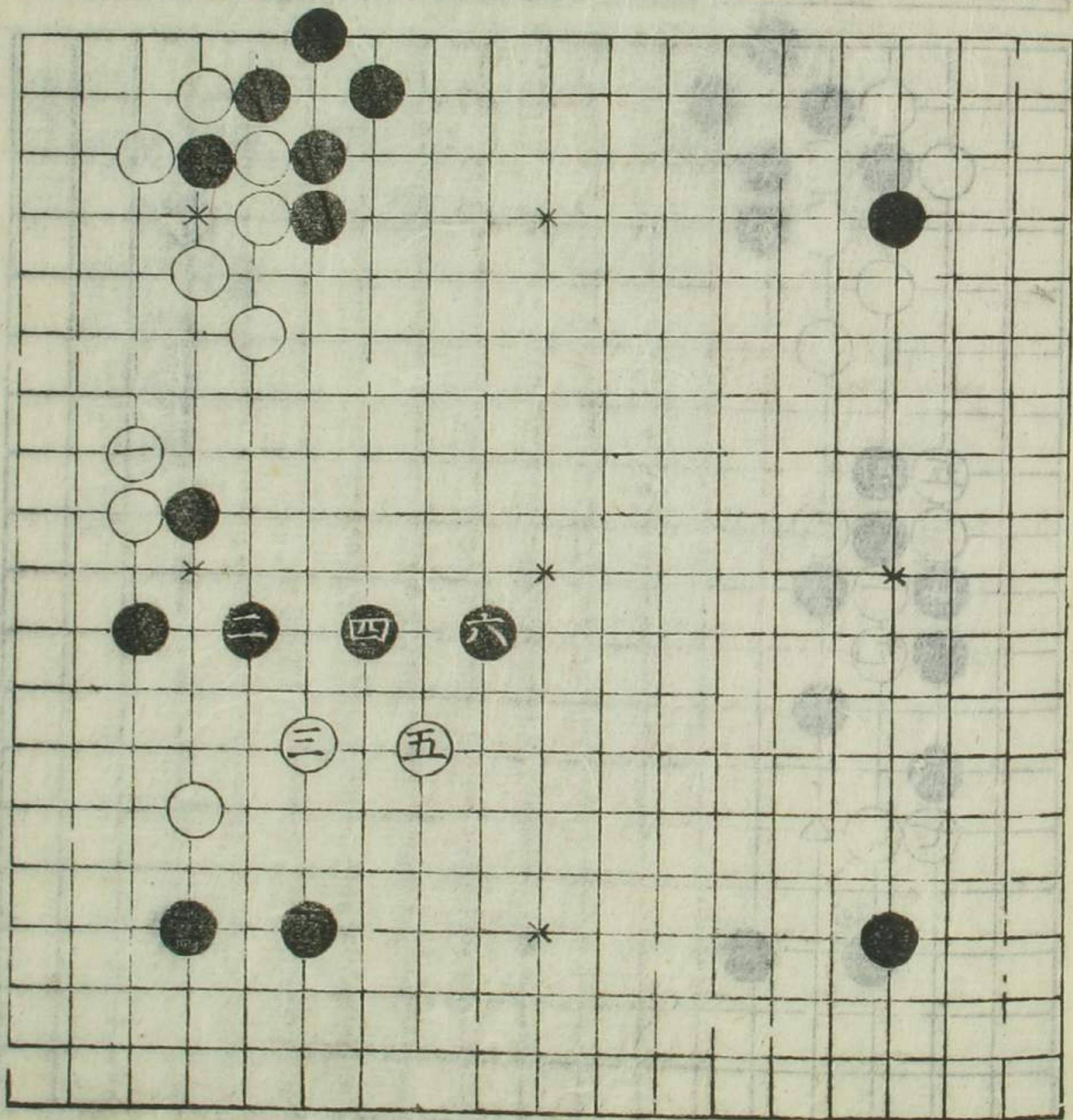
⑥粘



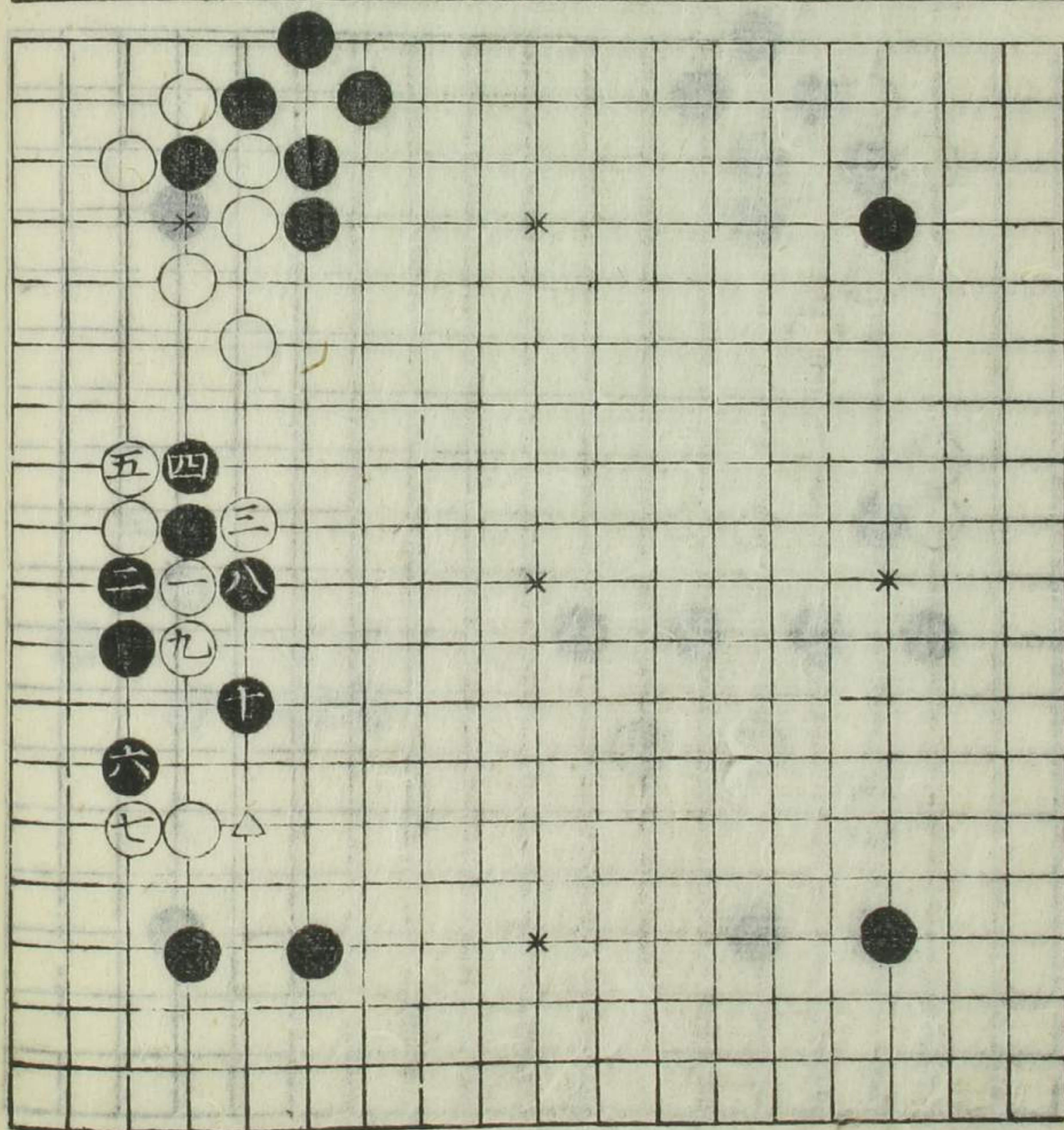
黒六ノ手ハ捨石
ト可心得白七ト
折手ハ大ニアレモ
ドモ捨石ノ意味
ヲ示スノミ



黒六ノ飛ヨシ飛員
テ不可ト可心得

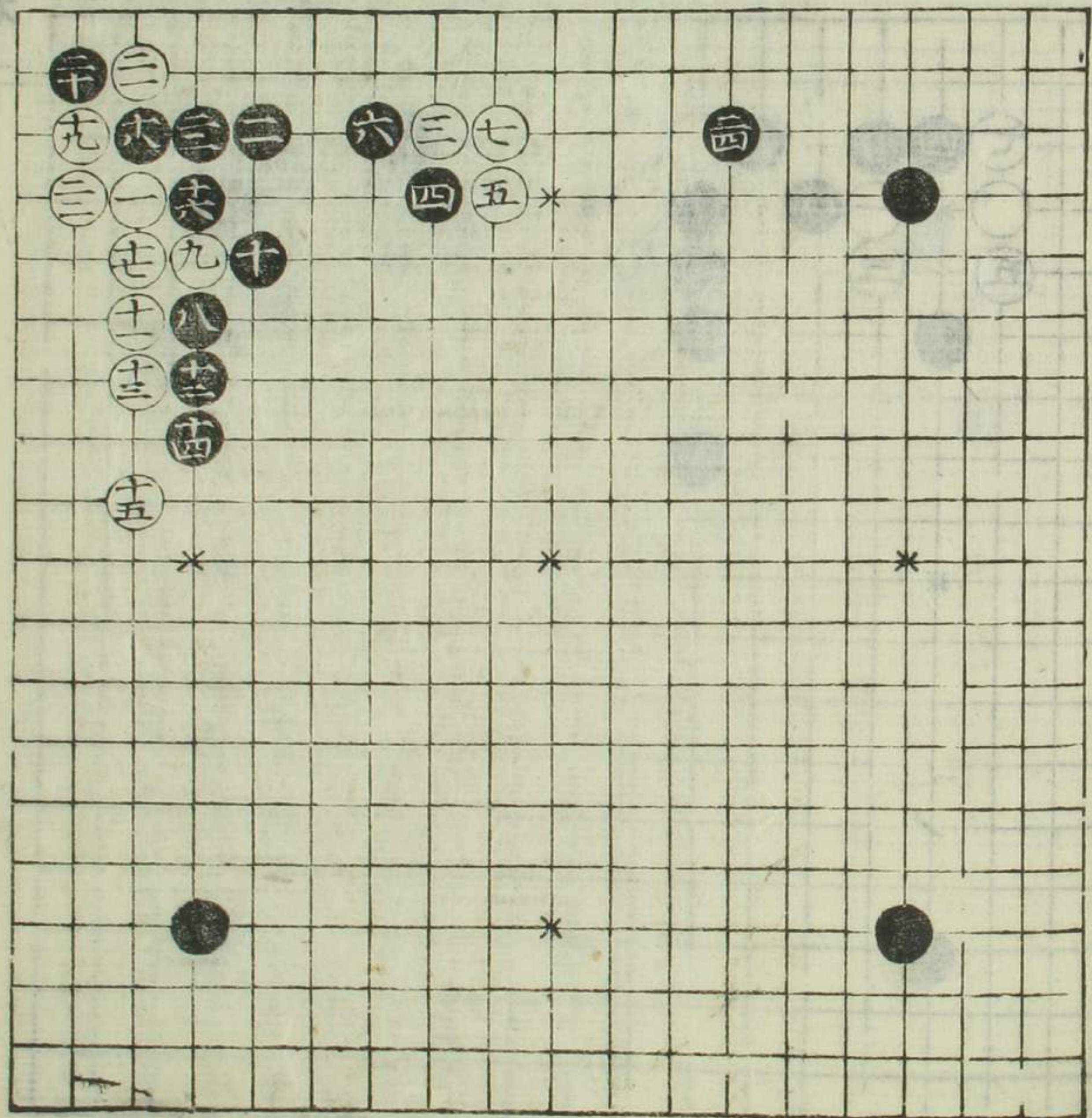


黒六ノ手ヲ白ノ九ノ
処エ押テニツ押モ
ヨシ又△印エ付ルモ
ヨシ只真ノ初学ニ
輕ク二目ヲ捨ル心得
ノヨシト云ヲ示スノ
圖也



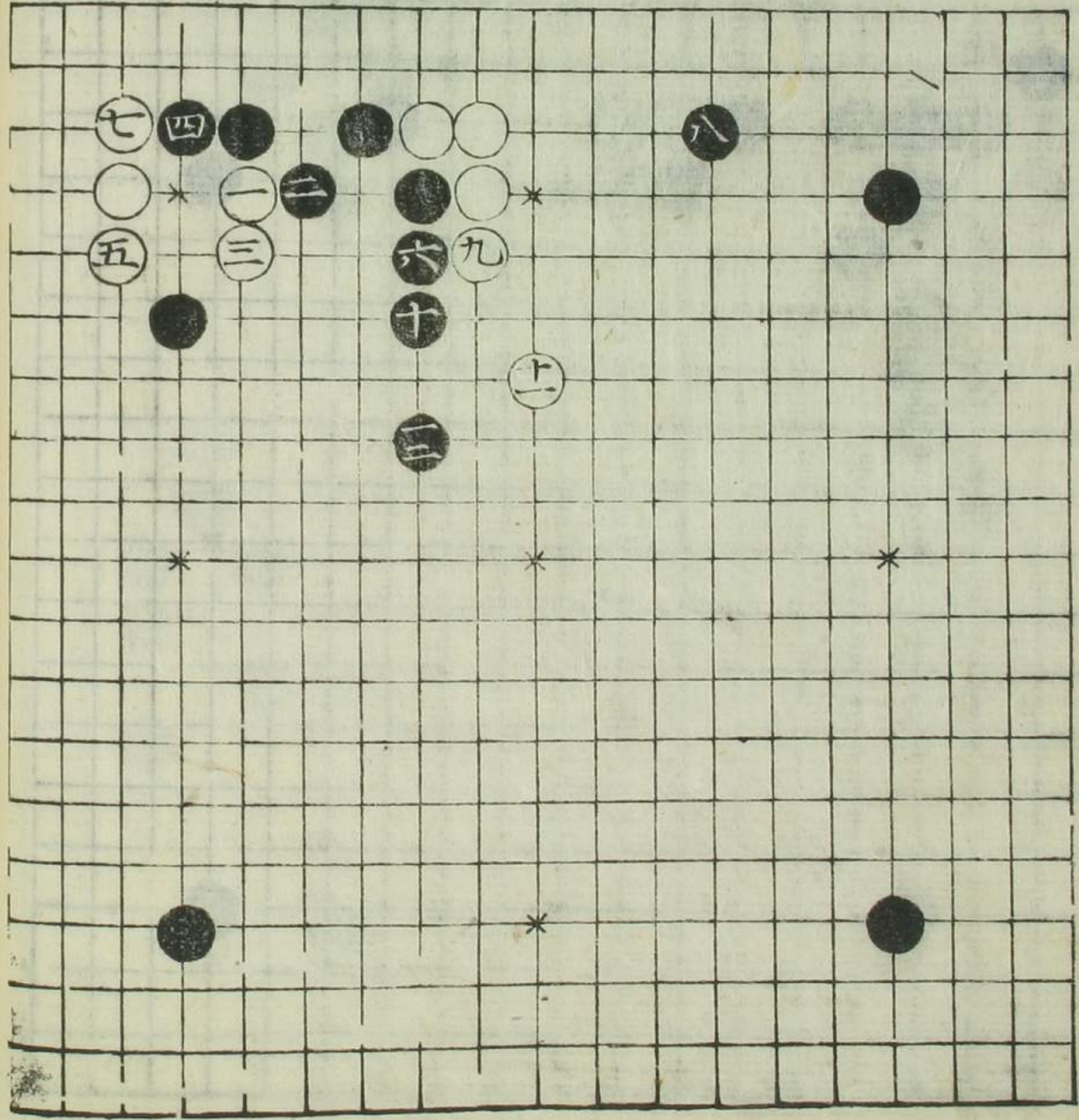
是ノ不
馬六ノ
馬六ノ

黒ハ手昔ハ白ノ十
三ノ所エ打ヲ定法
ト教來レリ今ハ如
是打方無紛シテ
ヨシト示ス

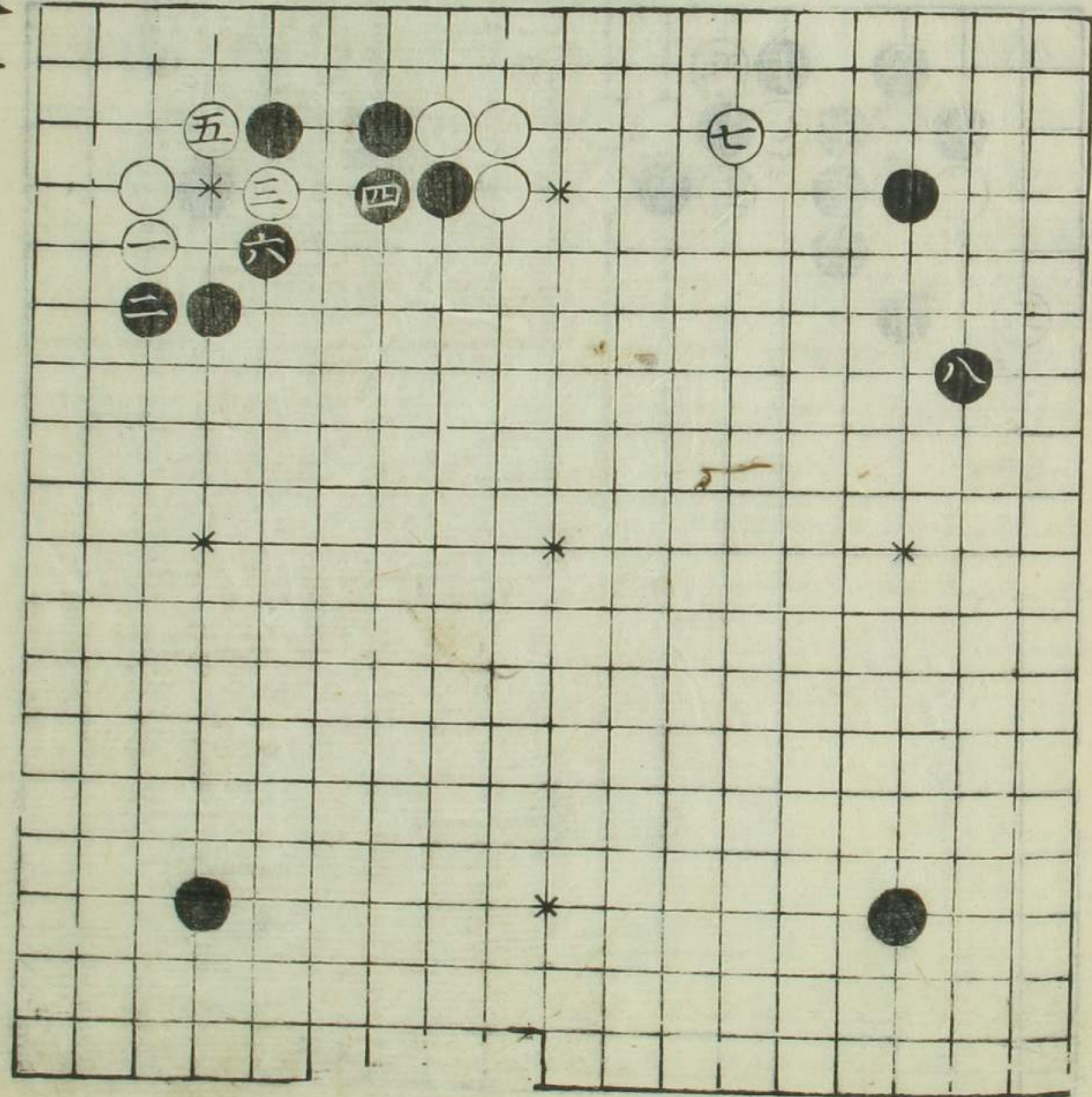


白七ノ手ヲ八ノ所
工打バ何ヲ於テモ
七ノ所工打ハ上モナ
キ能所ト可知

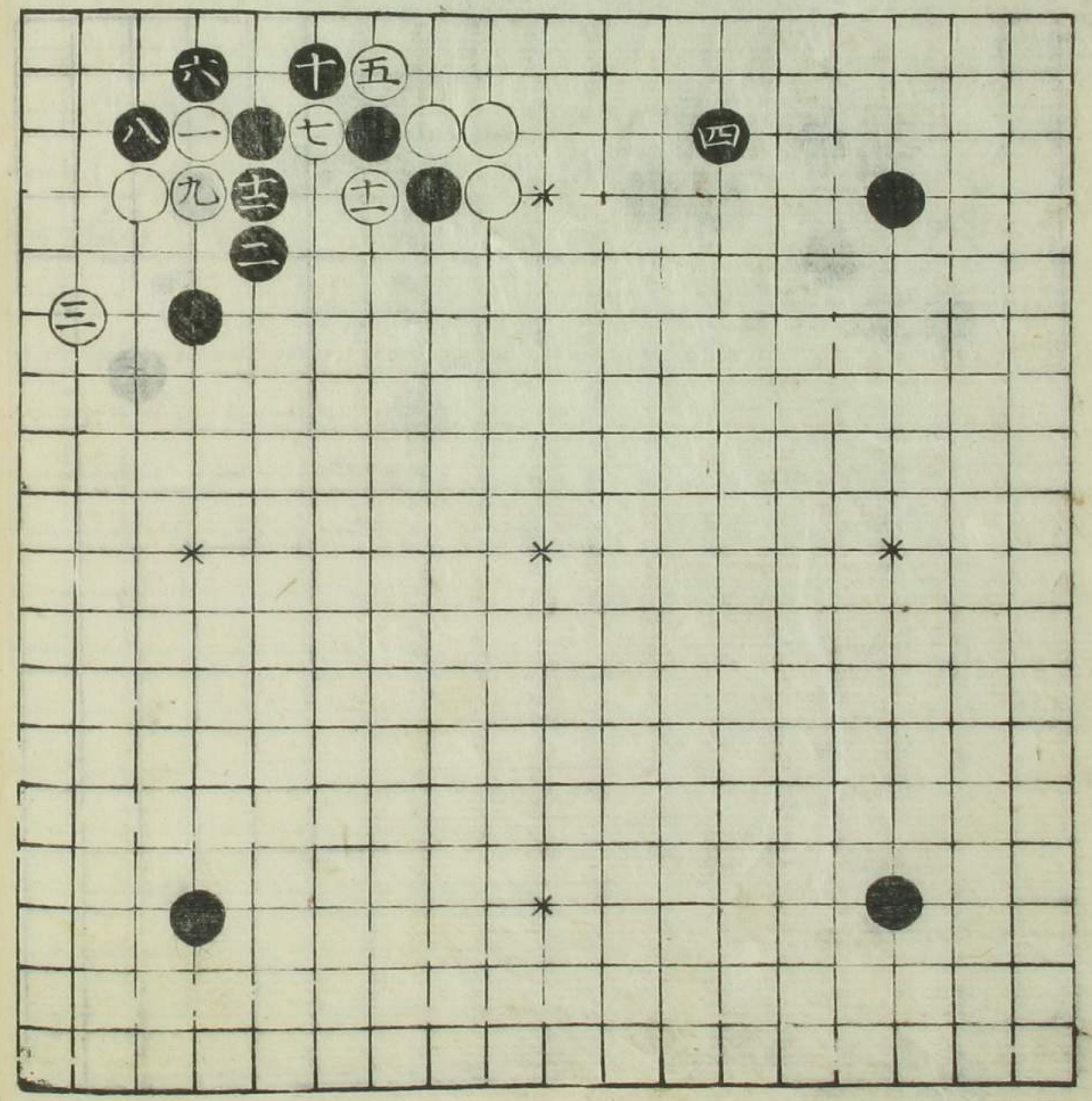
白七ノ手ヲ八ノ所
工打バ何ヲ於テモ
七ノ所工打ハ上モナ
キ能所ト可知



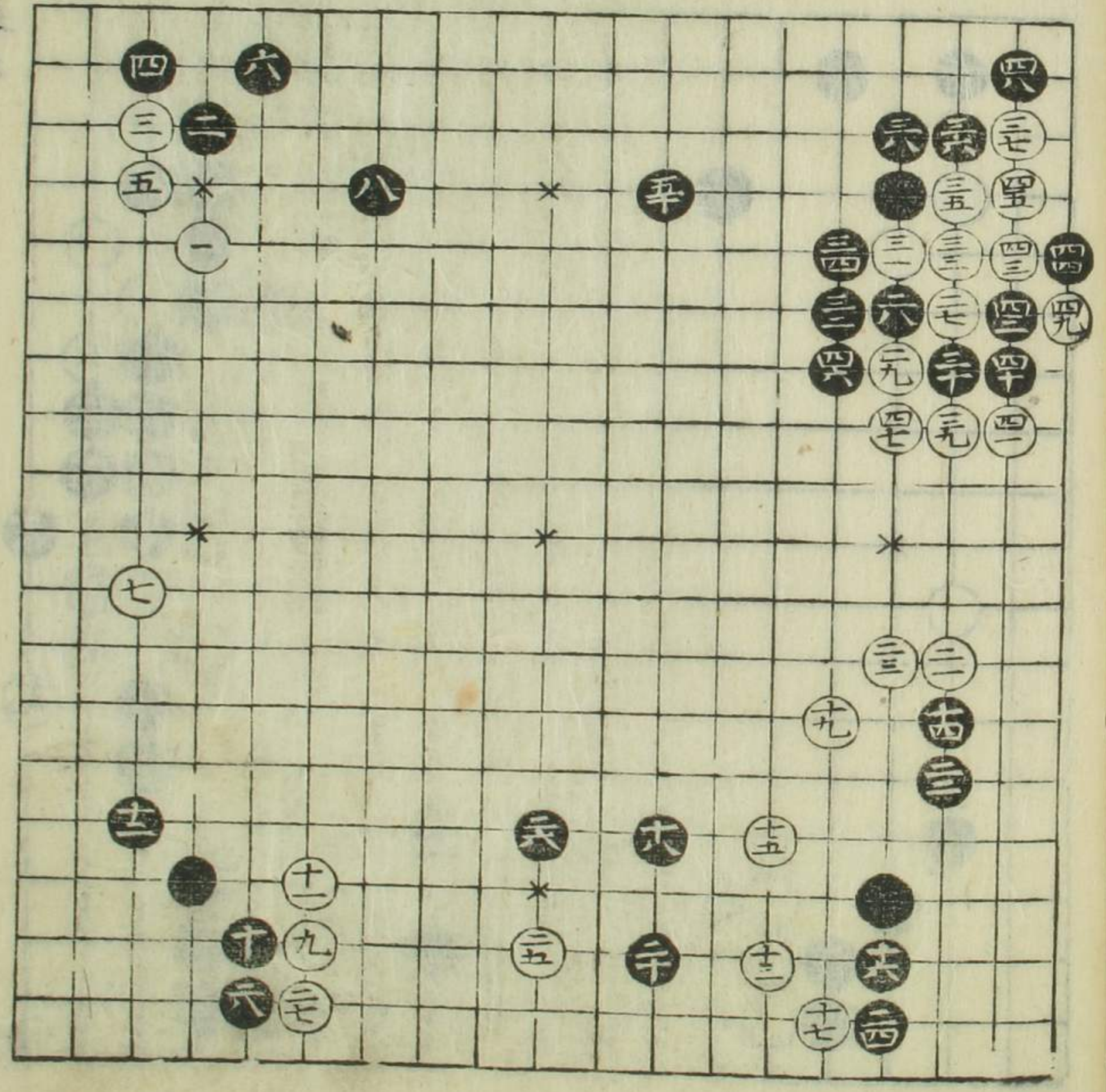
白ノ手不宜如
是ニテハ黒大ニヨレ



白五ノ手ハ絶テ不
打筋ナレドモ黒石
ノ捨方輕キヲ示ス
ノミ



黒十八ノ手至テ初
心ノ人ハ十九ノ處ニ打
方儘ナリト可知
黒三十ノ大悪手ナレバ
此形ニテハ可然儀矢
張三ノ処ニ打方ヨ
シト可心得
變化次ニ記



少傳

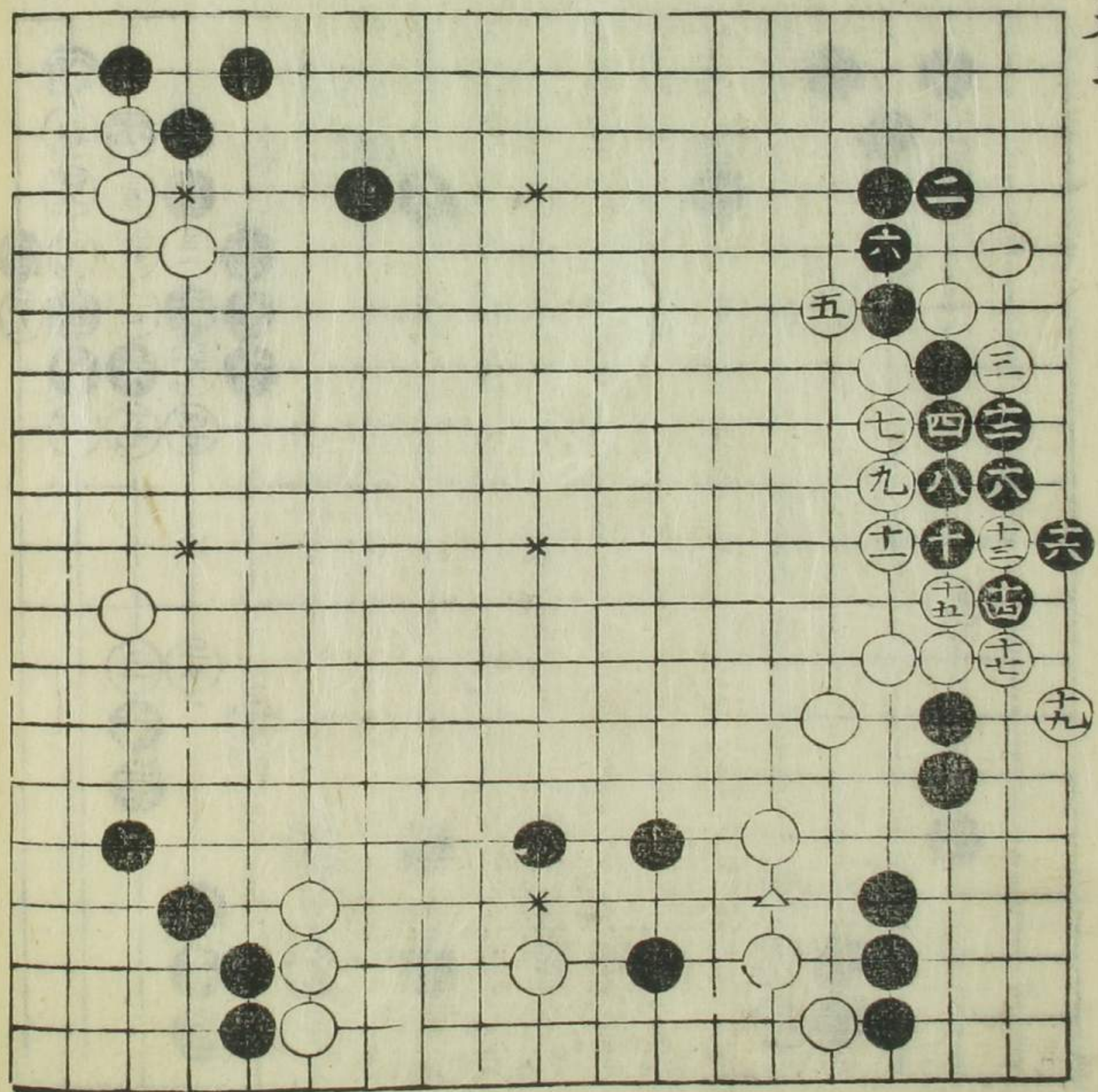
卷二

七

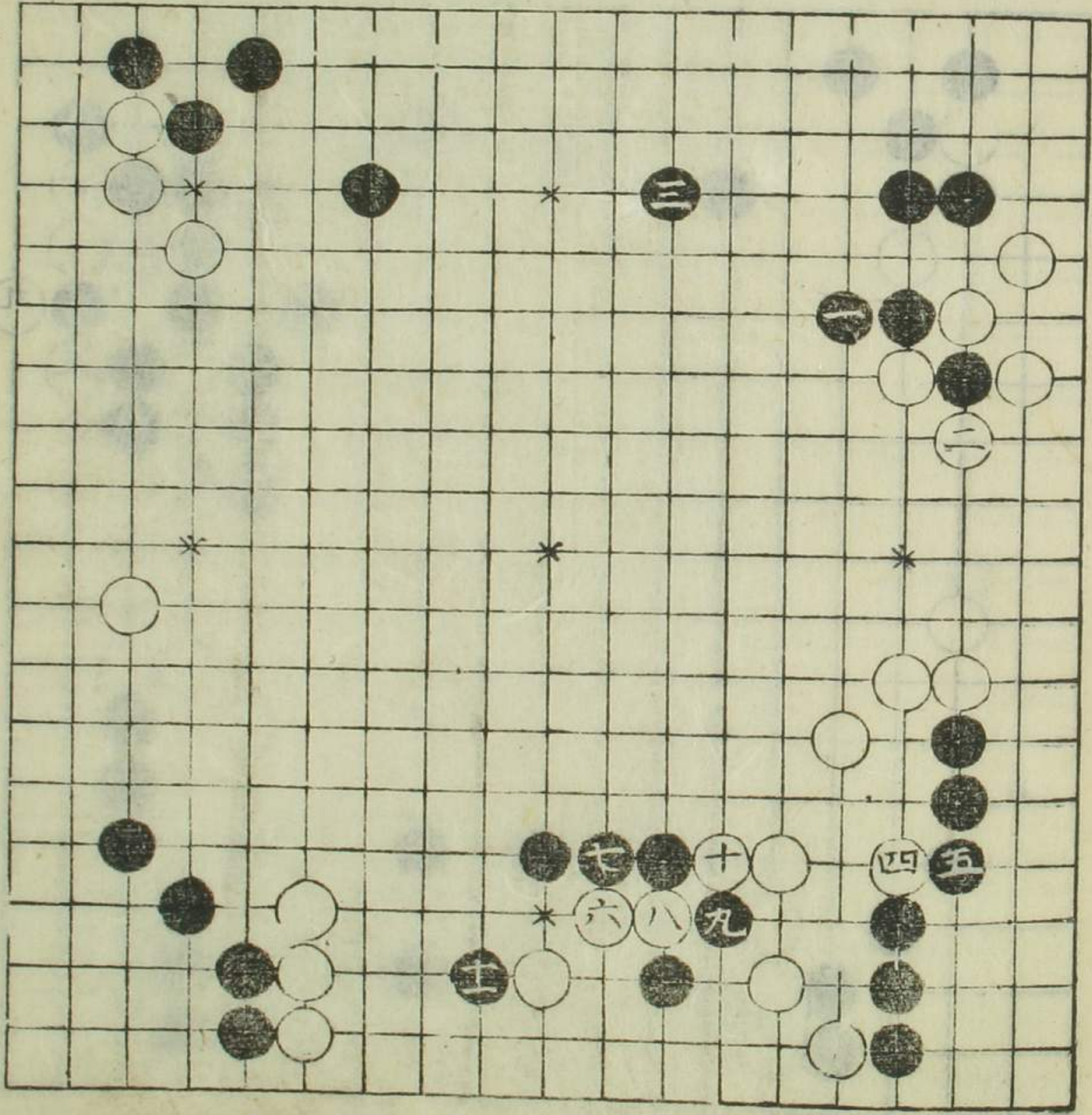
女傳

十六

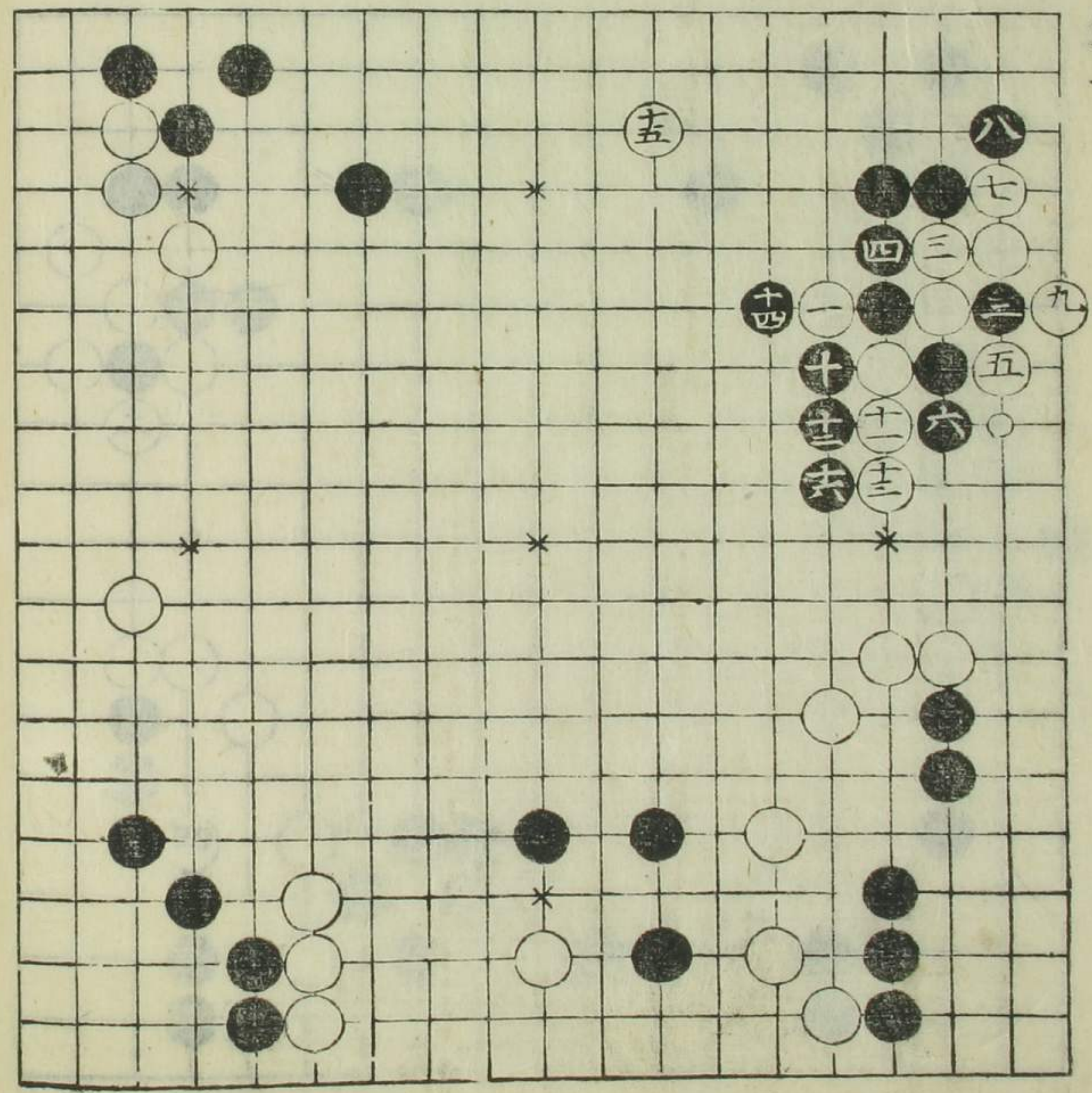
如是ニテハ初心ノ人
必紛ル、ナリ尤ハ印
打テ凌アレモ三日ノ
黒段々弱クナリテ
下手ハ可及苦痛
因テ變化又次ニ記
表三一、手ヨリ替



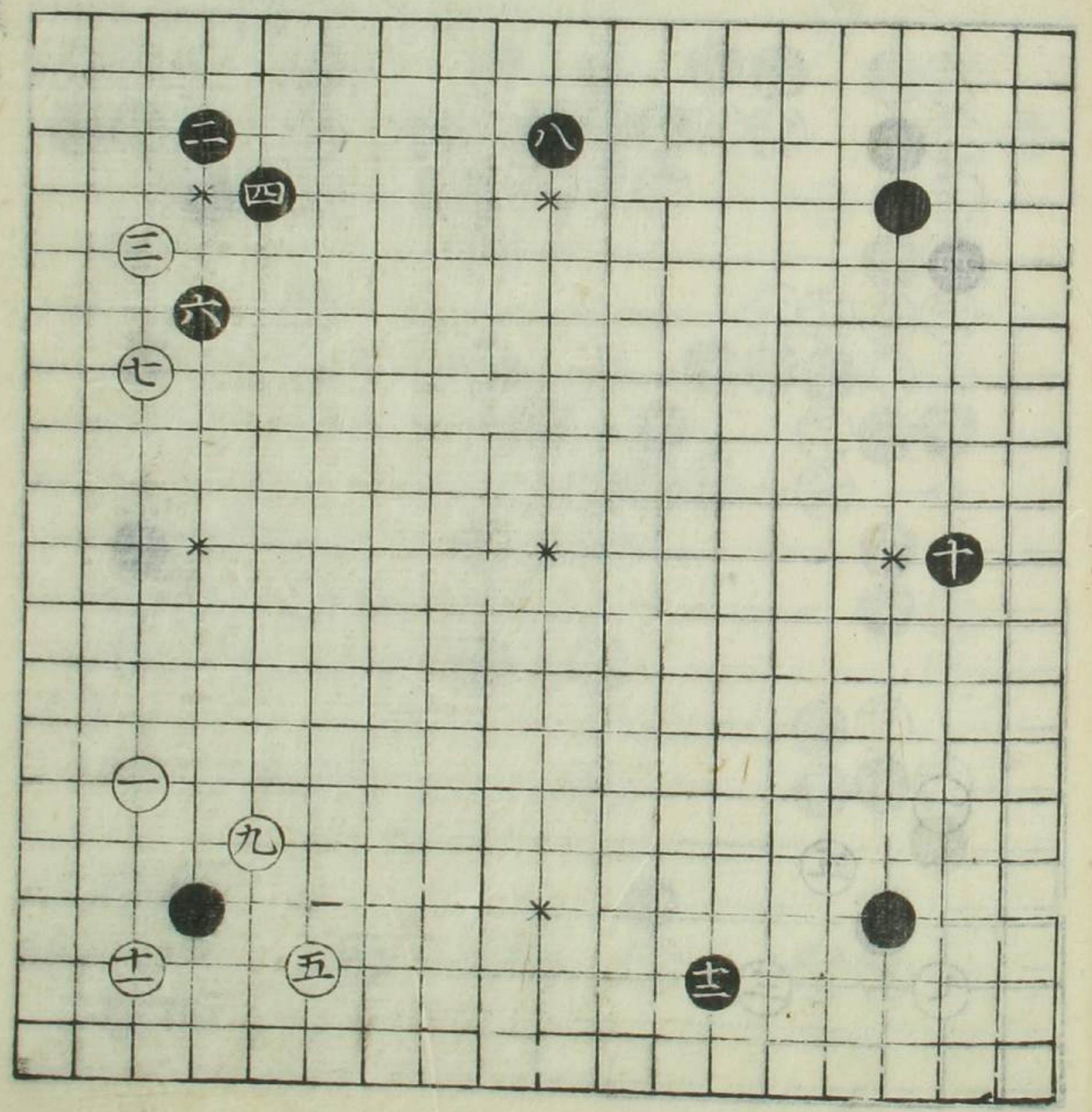
前圖四ノ手ヨリ替
如是亦ラカニ目ヲ
捨ル方損ニ似タレ
トモ置碁ニテハ打
ヨシ變化又次ニ記



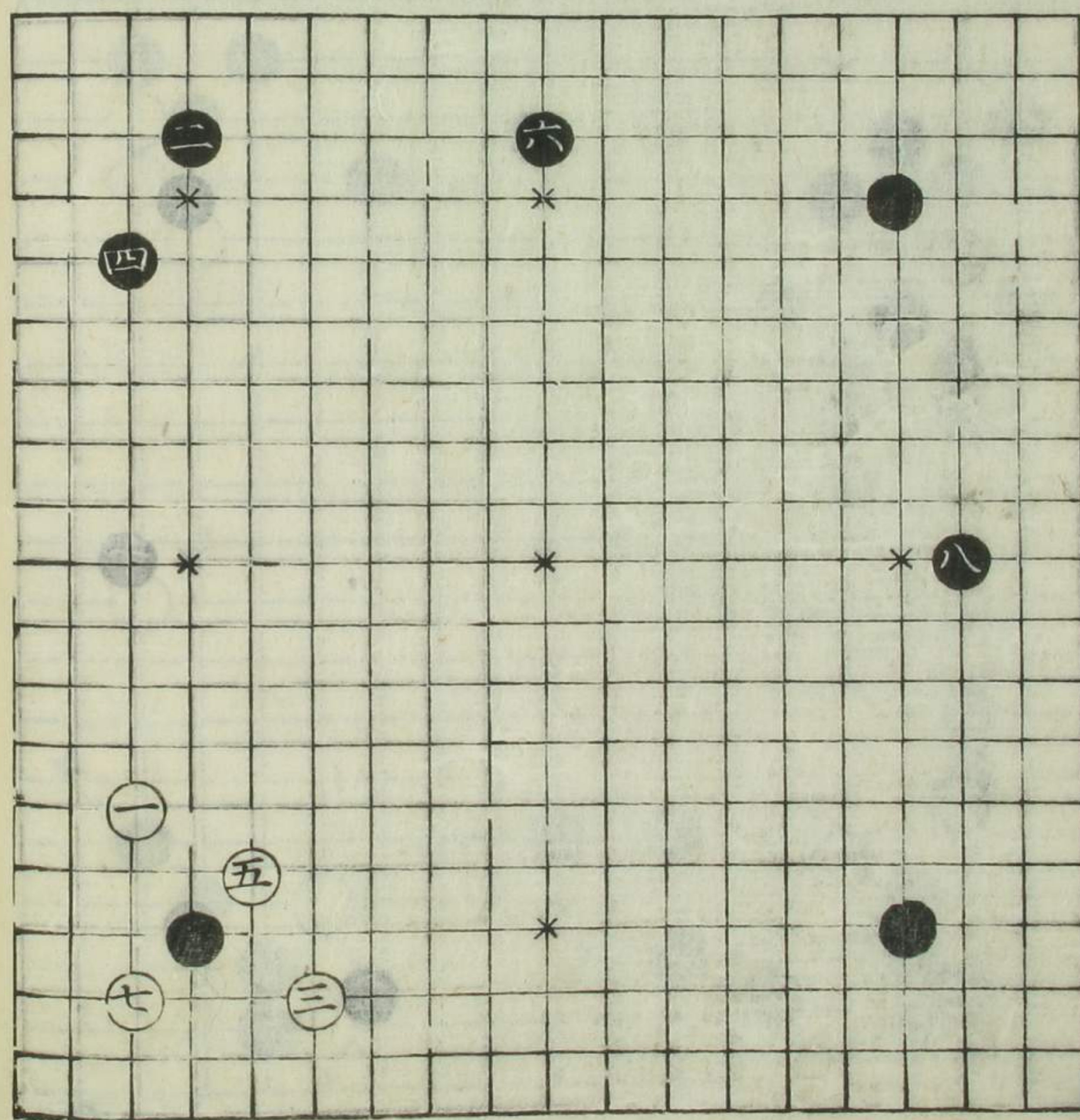
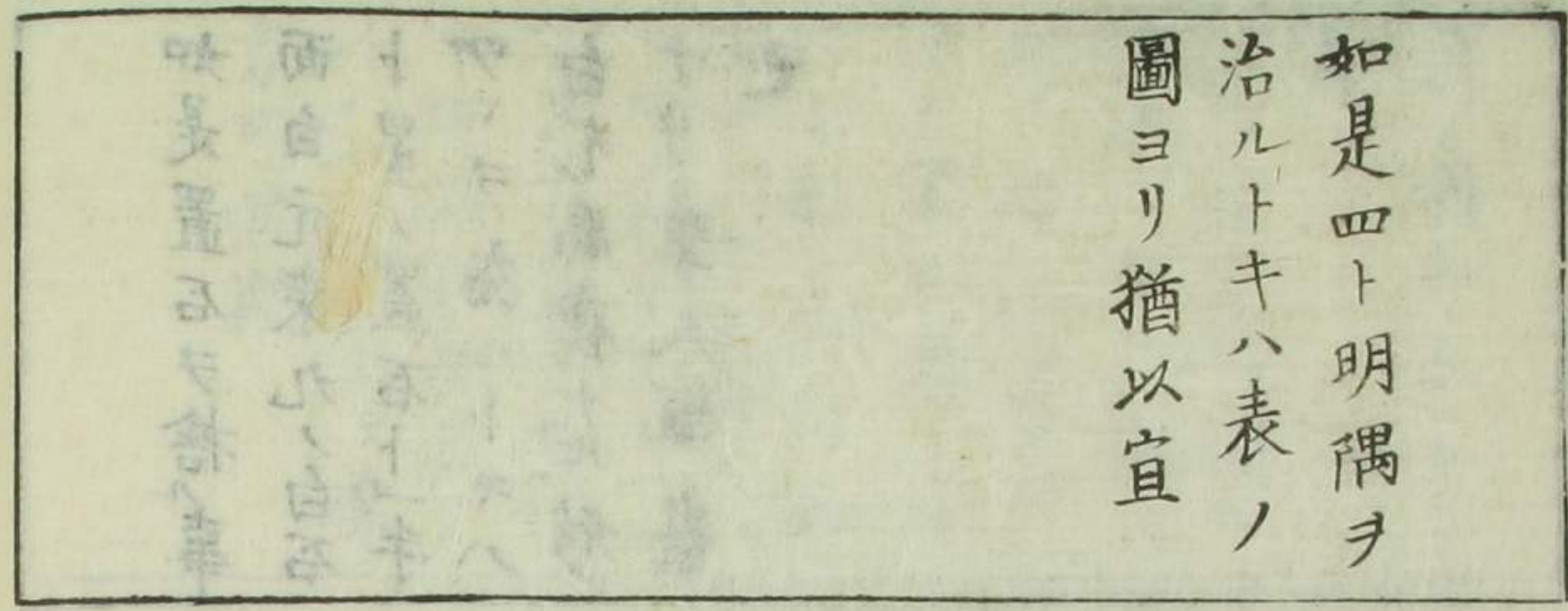
前々圖三ノ手ヨリ
 變
 白三ノ手ヲ四ノ処エ
 打来トキハ三ノ所エ
 切テ劫ハ何方ニテ
 モ不聞可勝凡五
 十目程ノ劫ト可知
 黒十ノ手有カ人ハ
 ○印エ打テ又十一ノ
 処ヲ二ツモ三ツモ押
 テ可戦但非力ノ
 人ハ如是二目ヲ棄
 方可然歟



如是置石ヲ捨ル事
 面白元来九ノ白石
 ト星ノ置石ト一手
 シ、ヲ太ルトキハ
 白尤馬鹿ナル形
 ナリ学人深察
 之



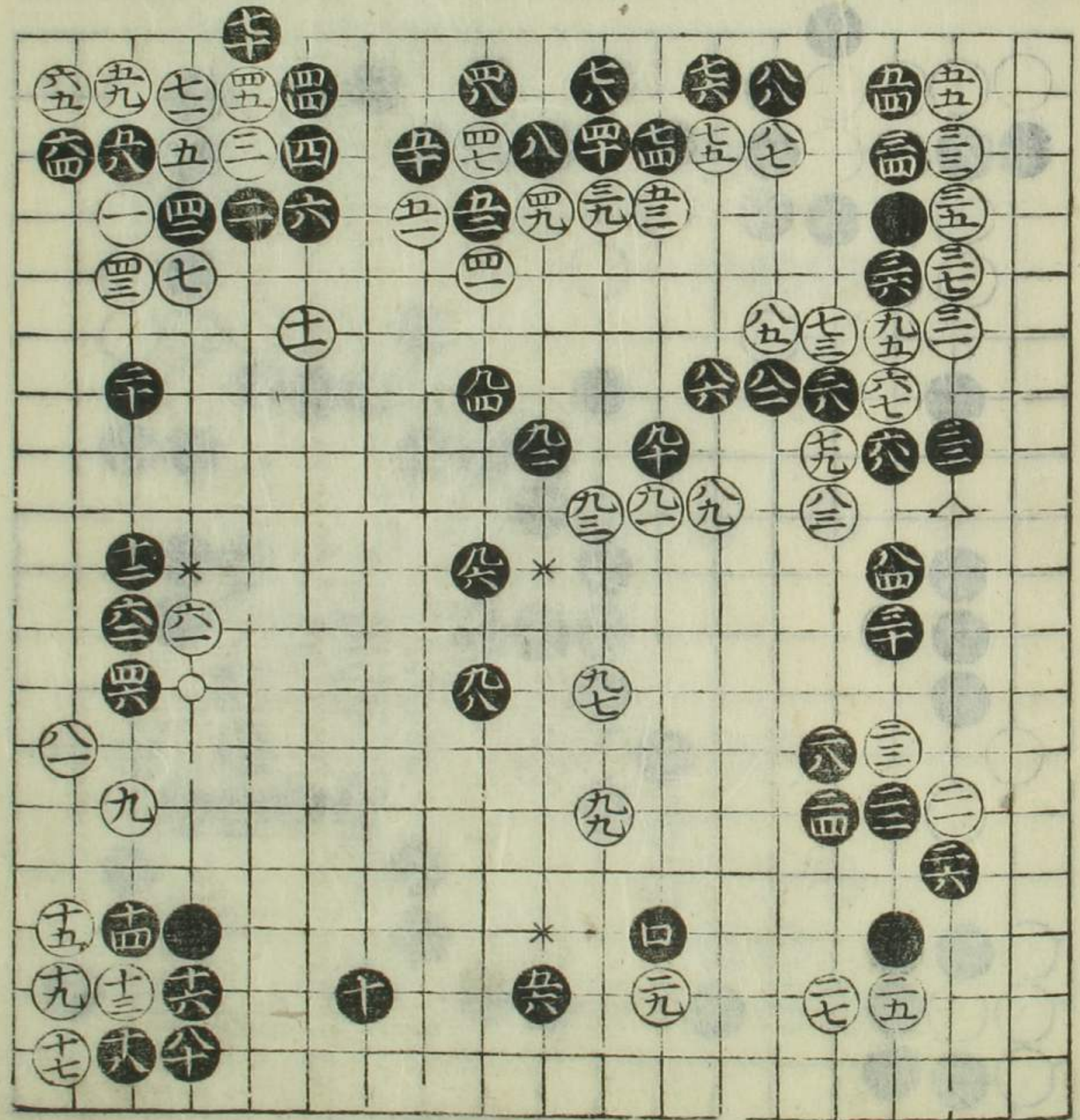
如是四ト明隅ヲ
沿ルトキハ表ノ
圖ヨリ猶以宜



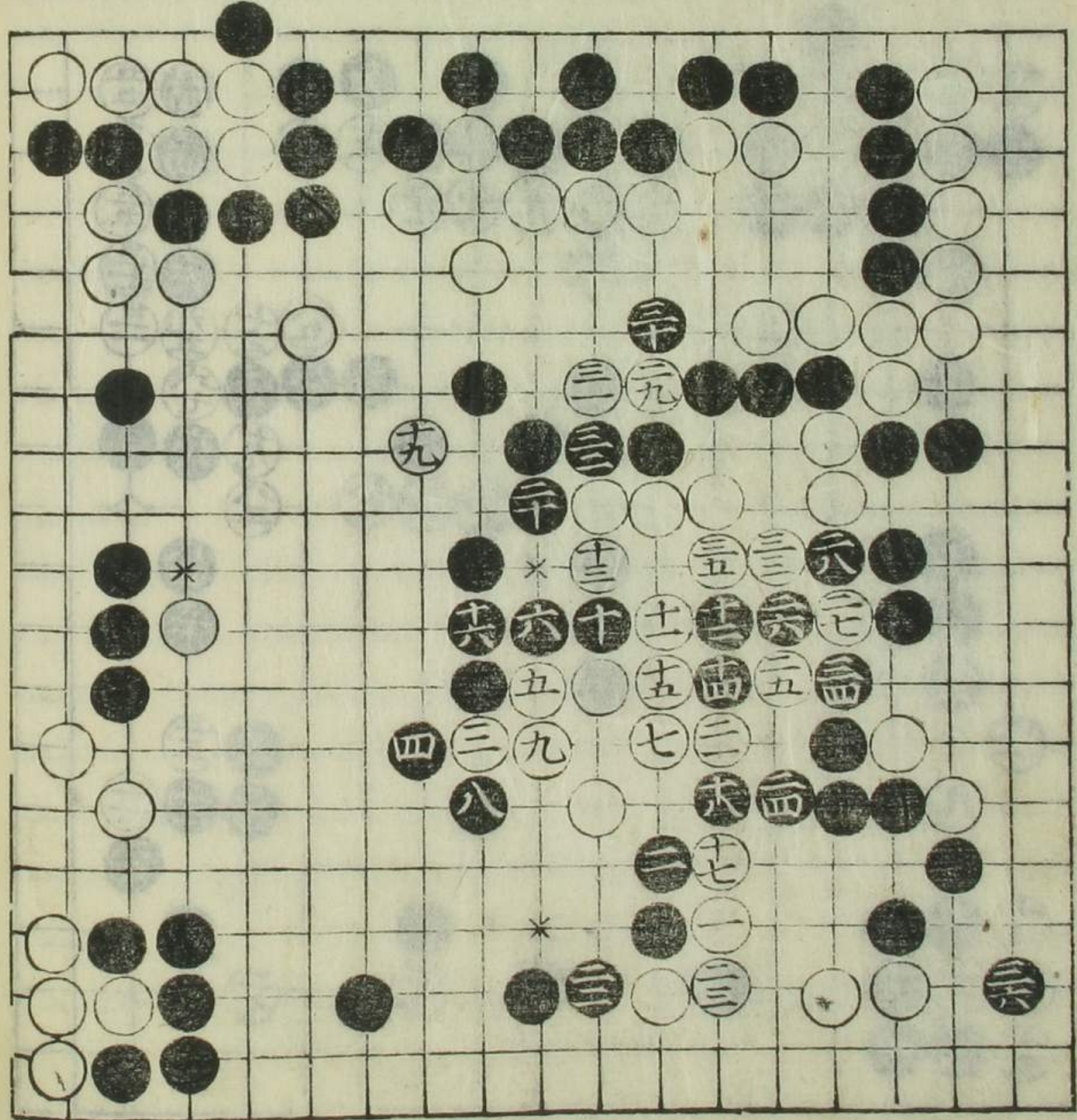
嘉永五年壬子正月十六日
於姬城

幼菴
三上豪山

三子 却ル
五七 却ル
六三 同
六九 同
七七 同
全六二又ルニ八一之所
歟又ハ〇印ノ方ヨシ
全四二唯四四ノ処工
打方ヨシ
黒三十三△印工打吉

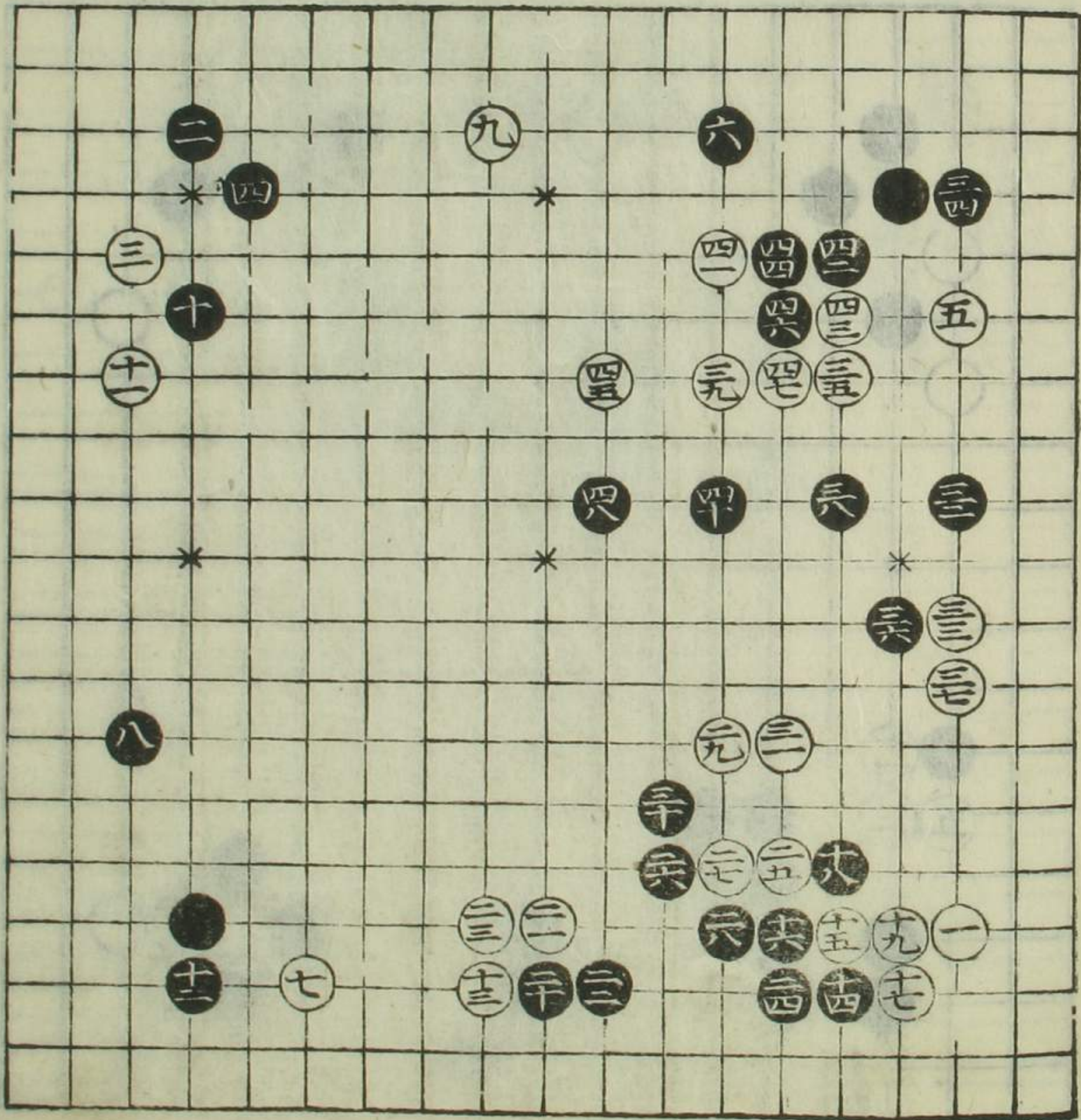


古風之石立也但
黒無紛シテヨシ

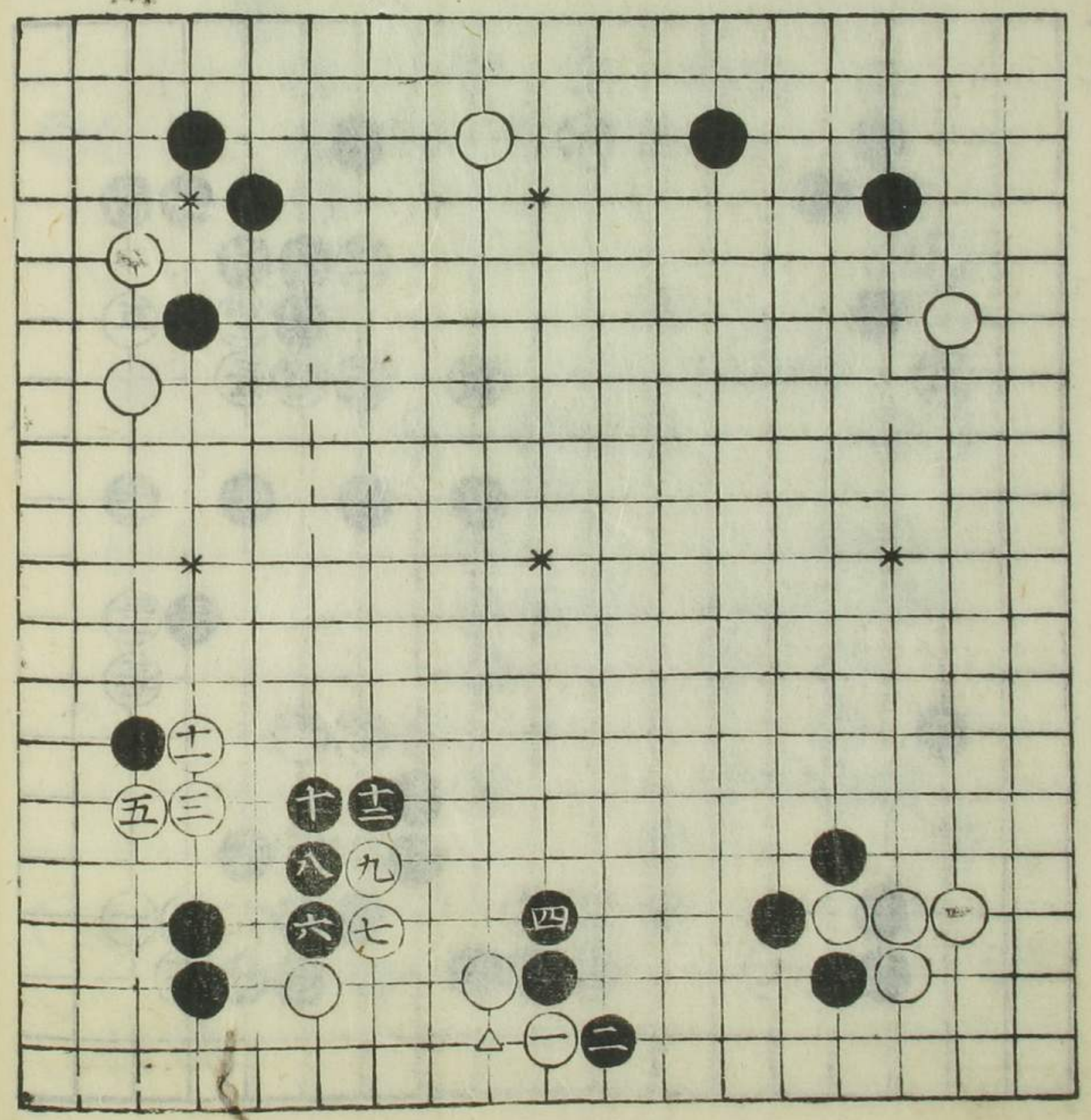


古風之石立也但
黒無紛シテヨシ

古風之石立也但
黒無紛シテヨシ

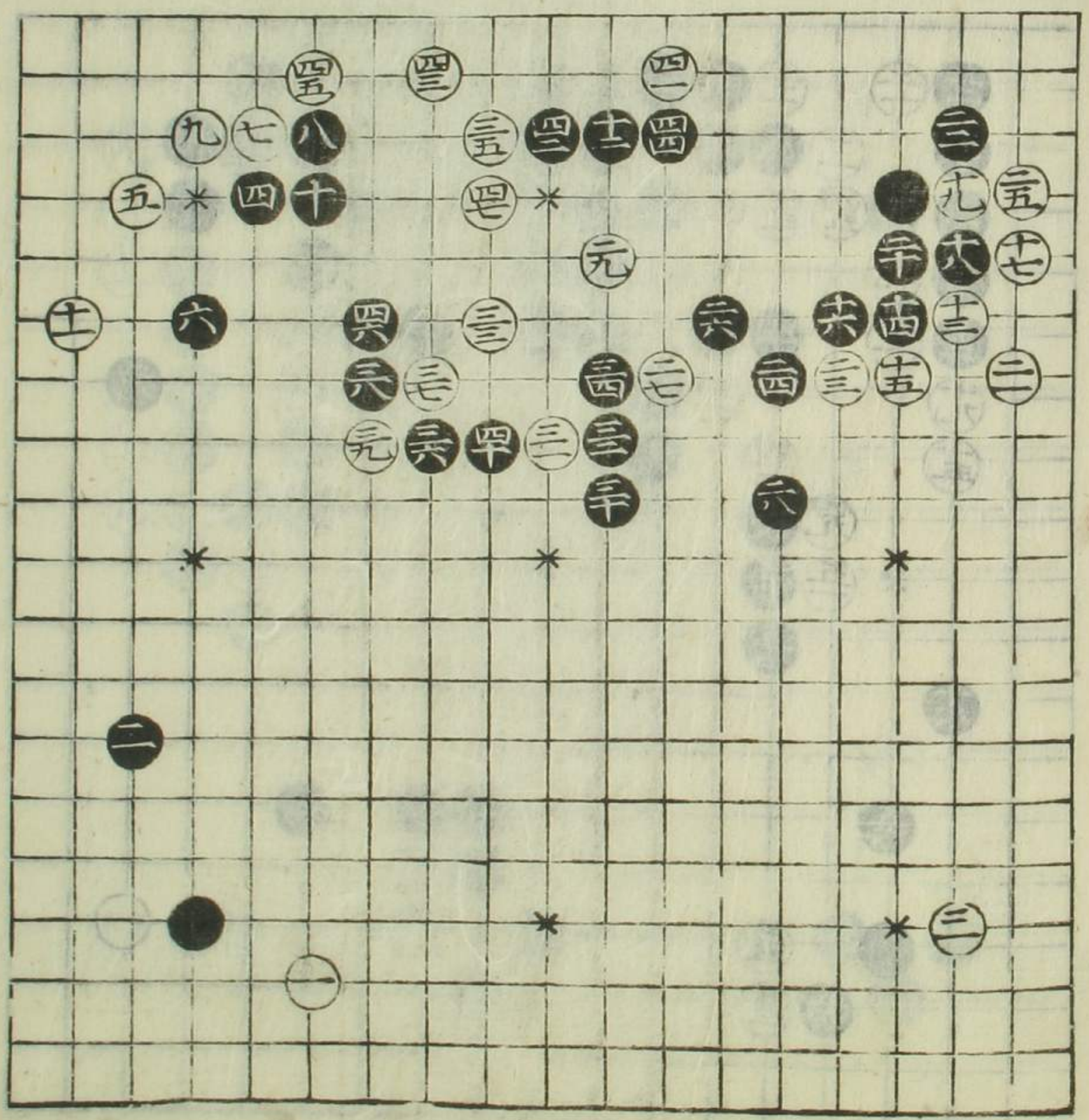


黒四ノ手△印エ
折テ一目ヲトルハ
意小ニシテ不宜



服部因淑
石原八十八

白二七新ニ夫大ニ面白
兵書云毀人之國而非久
也必以全争於天下
白四一四三ノ趣向右孫子
之意ニ合リト可謂歟



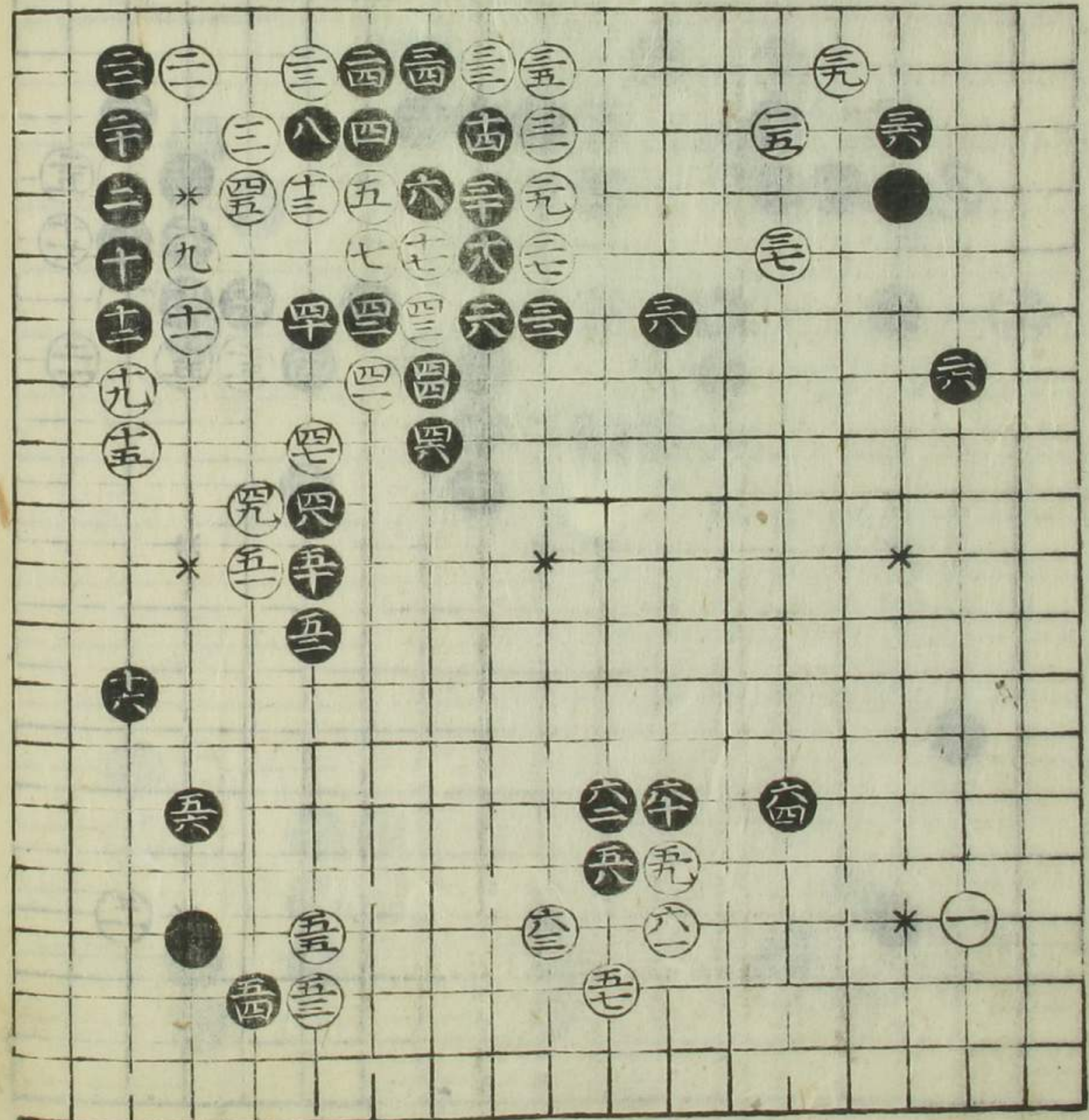
弘化三年午年十月

十一世 因碩

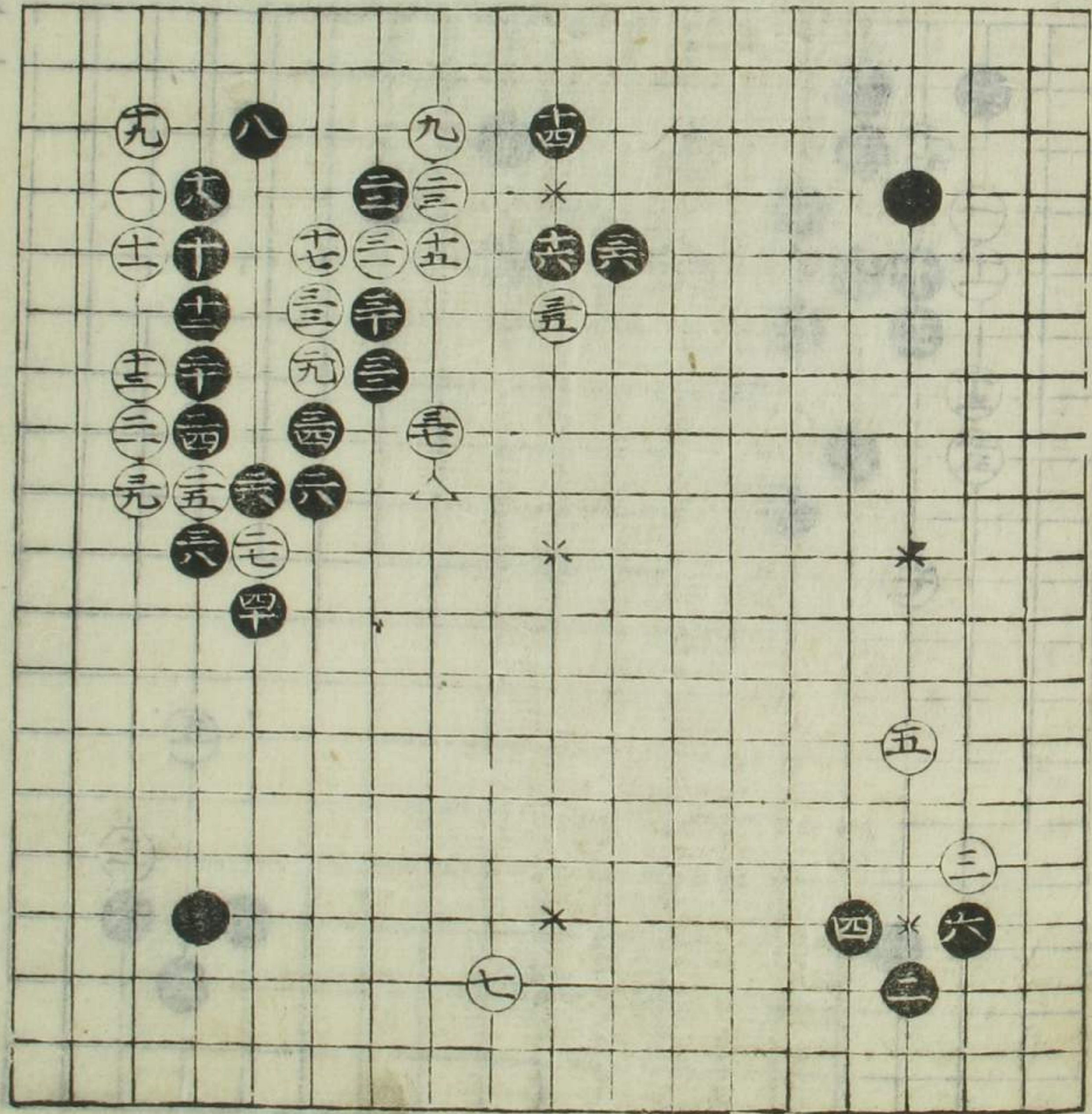
二子 岸本左一郎

兵書曰敵伏能勞之
飽能飢之安能動之
白二七、手能三非併
二子モ置セテハ則右孫
子ノ意ニ合リト可謂
歟

八十八
東



古風之立也黒尤
ヨレ三八ト四十ノ手
征ノ中リ有トキハ△
印杯工可打



八十八

十三

九十二

十三

尋常之石立也黑
尤ヨレ

古風之在休風水

